大日本耳鼻咽喉科會會報 第三十八卷 第十一號

昭和八年二月

原 著

聽器ノ「レントゲン」學的研究 (其二)

耳性硬腦膜外膿瘍ノ「レ」線像ニ就テ

Prof. Dr. T. Masuda u. Dr. Y. Yoshie: Röntgenologische Studien am Gehörorgan.
(II. Mitteilung.) Über das Röntgenbild beim otogenen extraduralen Abszess.

東京帝國大學耳鼻咽喉科教室

増田胤次
義江義雄

内 容 目 次	
第一章 緒 言	第四章 「レ」線像ノ總括的觀察
第二章 撮影方法	第五章 「レ」線像ト臨牀的所見
第三章 臨牀症例	第六章 「レ」線像ト手術所見
	第七章 結 論

第一章 緒 言

急性中耳炎殊ニ之ニ合併セル急性乳嘴突起炎ノ「レ」線検査ハ「レントゲン」線發生裝置ノ改良ト撮影技術ノ進歩トニヨリテ漸次發達シ、今日ニ於テハ急性乳嘴突起炎ノ診斷ハ勿論、其ノ手術ノ適應症ヲ決定スルニモ、極メテ重要ナル根據ヲ與フル補助方法ノ一トセラル、ニ至レリ。

然ルニ現今ニ於ケル乳嘴突起ノ「レ」線検査ハ、主トシテ乳嘴突起又ハ之ニ接續セル骨部分ノ變化ニ就テ、其「レ」線像ノ輪廓、影像濃度、「コントラスト」ノ變化等ヲ觀察シ、之ニヨリテ初メテ病竈ノ位置、範圍或ハ其程度等ヲ判斷シ得ルモノナルガ故ニ、「レ」線像上ニ斯ノ如

原 著 増田・義江「聽器ノ「レントゲン」學的研究(其二)」

第三十八卷 一二七九 (第十一號 一)

キ輪廓ノ破壊、影像濃度ノ異常、「コントラスト」ノ差異ヲ明瞭ニ示スニ至ラザルガ如キ場合、又ハ極メテ輕度ニシテ、肉眼的ニ容易ニ認識シ能ハザル程度ノモノタルガ如キ場合ニ於テハ、之ヲ「レントゲン」學的ニ診定スルコト不可能ナリ。茲ニ於テ腦實質或ハ腦室内ノ耳性合併症ハ未ダ之ヲ直接ニ「レ」線寫眞上ニ描出スル能ハザルハ言ヲ俟タザル所ナリ。

尙ホ耳性硬腦膜外膿瘍ニ就テモ、之ヲ直接「レ」線寫眞上ニ描出スルコトハ極メテ困難ナルモ、其ノ膿瘍ノ存在スル位置ガ多クノ場合乳嘴蜂巢ニ近接シ、乳嘴突起ノ内皮骨面ニ相隣接スル關係上、アル適當ナル狀態ノ下ニ置カレタル場合ニハ、之ニ適應セル撮影方向ヲ以テスル時ハ、之ヲ間接的ニ「レ」線寫眞上ニ觀察シ得ル場合アラントハ想像ニ難カラズ。然ルニ、耳性硬腦膜外膿瘍ノ「レントゲン」學的研究ハ未ダ極メテ少ク、一九二二年 A. Heinemann ハ *Röntgenaufnahme des Warzenfortsatzes und ihre klinische Bedeutung* ナル論文ノ一節ニ於テ S 字狀竇周圍膿瘍ノ「レ」線像ニ論及セルモ、爾來之ニ就テ更ニ觀察、研究ヲ試ミントスル者ナク、漸ク一九三〇年ニ至リ E. G. Mayer ハ慢性化膿性中耳炎ニ於ケル S 字狀溝或ハ天盖部骨壁ノ破壊像ニ就テ、J. Boente ハ急性化膿性中耳炎ニ合併セル橫竇周圍膿瘍ノ「レ」線像ニ就テ發表セルニ過ギズ。

我國ニ於テハ、一九三〇年増田ハ第三十四回大日本耳鼻咽喉科會總會ニ於テ耳性硬腦膜外膿瘍ノ「レ」線寫眞ヲ供覽セルモ、爾來余等ハ急性乳嘴突起炎ヲ併發シ硬腦膜外膿瘍ヲ合併セル急性性中耳炎ニ就テ、精細ニ「レ」線檢査ヲ行フト、モニ、更ニ之等「レ」線所見ヲ其ノ臨牀的經過並ニ手術所見等ト比較考察ヲ續ケ來タレリ。觀察セラレタル症例二十四例ニ及ビタルヲ以テ、茲ニ其「レ」線像ニ就テ論述シ、併セテ之ト其ノ臨牀的經過並ニ手術所見トノ關係等ニ就テ考察シ、以テ僅少ナル文獻ニ追加シ、更ニコレニ因リテ此方面ニ於ケル耳科「レントゲン」診斷學ノ發達ニ多少トモ資スル所アラントス。

第二章 撮影方法

撮影方向ハ主トシテ Lange-Sonnenkalt 法ヲ使用シ、時ニ Steuvers 法ノ修正法ヲ併用セリ。

體位ハ前者ノ場合ニ於テハ患者ヲ横臥セシメ、腹位ノ姿勢トナシ、後者ノ場合ニ於テハ膝肘位 (Knieellenbogenlage) ヲ取ラシメ、頭部ヲ兩時間ニ固定シテ撮影セリ。孰レモ頭部傾斜器ヲ使用シ、之ヲ以テ頭部ノ廻轉ト傾斜トハ可及的正確ニ保持セシメタリ。

「ブレンデ」ハ乳嘴突起部ノ撮影ニ際シテハ、直徑八一〇浬、長サ四〇浬ノ鉛製ノ圓筒ヲ使用シ、錐體部ノ撮影ニ際シテハ、直徑八浬、長サ七〇浬ノ圓筒ヲ使用セリ。尙後者ノ場合ニハ更ニ圓筒上部ニ厚サ〇・一浬ノ「アルミニウム」製遮光板ヲ附シテ撮影セリ。

露出ハ一二〇 V = 四五 KV = 一〇「ミリアンペア」ニ於テ二乃至五秒トシ、錐體部撮影ニハコノ約三倍トセリ。

頭部傾斜器、頭部ノ固定、撮影方式等ニ就テハ義江ノ聽器ノ「レントゲン」學的研究（其一）（大日本耳鼻喉科會々報第三十七卷第十二號、第三十八卷第一號）ニ記載セル所ノ如シ。

二十四例ノ中二十一例ハ「ブツキー、ブレンデ」ヲ使用シ、他ハ之ヲ使用セズシテ撮影ス。

第三章 臨牀症例

症例總數二十四例ニシテ、是等ハ悉ク其既往歴ニ於テ急性化膿性中耳炎ニ罹患シ、之ニ引續キ乳嘴突起炎ヲ併發シ、早キモノハ急性中耳炎罹患後二十五日ヲ、晚キモノハ約八ヶ月ヲ經テ乳嘴突起ヲ手術的ニ開放セルモノニシテ、手術ノ結果、中頭蓋窩或ハ後頭蓋窩ノ一部ニ淺在性硬腦膜外膿瘍ヲ、又一部ハ錐體後面部ニ深在性硬腦膜外膿瘍ヲ認メタルモノナリ。孰レモ手術ニヨリテ初メテ硬腦膜外膿瘍ノ合併ヲ診定シ得タルモノニシテ、此中ノ十一例ハ患側ニ於ケル強度ノ偏頭痛或ハ乳嘴導血管部ニ限局セル耳後部ノ腫脹ニヨリテ、臨牀上硬腦膜外膿瘍ノ合併セルヲ多少想像シ得タルモ、其他ハ孰レモ臨牀上硬腦膜外膿瘍ノ合併ヲ疑フベキ自覺的並ニ他覺的所見ハ全然之ヲ認メ得ザリシモノナリ。

是等ノ症例ハ昭和二年七月ヨリ昭和六年七月ニ至ル過去五年間ニ手術セラレタル耳性硬腦膜外膿瘍症例中其「レ」線像ノ比較的明瞭ナルモノニシテ、二十一例ハ東大耳鼻喉科ニ於テ、三例ハ東京警察病院耳鼻喉科ニ於テ觀察セラレタルモノナリ。

慢性化膿性中耳炎或ハ中耳眞珠腫ニ合併セル硬腦膜外膿瘍ハ之ヲ除外セリ。

之等二十四例ニ就テ其病歴ヲ觀察スルニ、頗ル興味アルモノノ尠ナカラザルモ、其「レ」線像ヲ論ズルニ當リ、直接關係ヲ有セザル部分多ク、且ツ煩雜ヲ避ケンガタメニ、之ヲ次ノ如ク表示ス。

第一 表

症例 番號	姓 名	年 齡	初診年月日	臨牀診斷	臨牀的經過	レ線所見	手術所見	起炎菌	備考
一	正林某男	二五	昭和 二・七・三〇	左急性化膿性 中耳炎並急性 乳嘴突起炎	急性 （一ヶ月） 乳嘴天蓋ノ一部 ニ影像ノ破壞ヲ 認ム	乳嘴蜂 窩型 硬腦膜外膿 瘍ノ位置	頭蓋窩竇竇 骨壁	連菌	
二	松野某男	二六	同 二・九・二九	左急性化膿性 中耳炎並急性 乳嘴突起炎	亞急性 （三ヶ月） 乳嘴突起ノ後上 部ニ特殊ノ限局 性透過影像アリ	乳嘴蜂 窩型 硬腦膜外膿 瘍ノ位置	頭蓋窩竇竇 骨壁	連菌	

一五	早坂某男	六五	同	四・一二・六	性中右 乳耳急 嚙炎化 突並亞 起急膿 性	(慢性 八ヶ月餘)	S字 部ハ上 ニ於テ 下兩膝 中間像	像周邊 性融解	右左	IV IV	錐體後壁	後頭蓋高前壁 ニ骨缺損	同	
一四	三木某女	三五	同	四・八・三一	炎急性 性中乳 嚙炎化 突並亞 起急膿 性	(慢性 八ヶ月)	殊ノ部 強限局 キ透明 像	像周邊 性融解	右左	I I	後頭蓋高側壁 合部附近	骨缺損	同	
一三	中村某女	三五	同	四・四五	乳嚙突 起急膿 性	(急性 二ヶ月)	強限局 キ透明 像	同	右左	IV I	中頭蓋高底	骨缺損	粘液性連菌	
一二	矢島某男	九	同	四・四・一八	乳嚙突 起急膿 性	(急性 一ヶ月)	乳嚙突 起急膿 性	同	右左	I I	後頭蓋高側壁	小ナル骨缺損	同	
一一	吉武某男	二四	同	四・二・二五	乳嚙突 起急膿 性	(急性 五十日)	細ナル 線トナ ル	像周邊 性融解	右左	I I	後頭蓋高前壁	骨缺損	同	
一〇	臼田某男	一七	同	三・二・二八	乳嚙突 起急膿 性	(急性 二十五日)	S字狀 部ハ上 ニ於テ 下兩膝 中間像	像周邊 性融解	右左	IV IV	後頭蓋高前壁	骨缺損	溶血性連菌	
九	稻澤某男	三七	同	三・八・一〇	性中右 乳耳急 嚙炎化 突並亞 起急膿 性	(急性 四ヶ月)	同	像周邊 性融解	右左	V V	後頭蓋高側壁	骨缺損	粘液性連菌	
八	青木某男	五一	同	三・三・三三	乳嚙突 起急膿 性	(急性 一ヶ月)	同	像周邊 性融解	右左	IV IV	後頭蓋高前壁	「カリエス」	溶血性連菌	
七	鳥井某男	四〇	同	三・二・一一	乳嚙突 起急膿 性	(急性 三ヶ月)	同	像周邊 性融解	右左	IV IV	後頭蓋高前壁	骨缺損	粘液性連菌	
六	大谷某男	一七	同	三・六・六六	乳嚙突 起急膿 性	(急性 二ヶ月)	同	像周邊 性融解	右左	V V	後頭蓋高側壁	「カリエス」	連菌	
五	深澤某男	四七	同	三・三・一八	乳嚙突 起急膿 性	(急性 二ヶ月)	同	像周邊 性融解	右左	IV IV	S字狀 部ハ上 ニ於テ 下兩膝 中間像	大ナル骨缺損	同	
四	古澤某女	二八	同	三・四・一三	乳嚙突 起急膿 性	(急性 二ヶ月)	同	像周邊 性融解	右左	V V	後頭蓋高前壁	骨缺損	粘液性連菌	
三	加藤某男	三三	同	三・一・二七	乳嚙突 起急膿 性	(急性 三ヶ月)	同	像周邊 性融解	右左	IV IV	後頭蓋高前壁	骨缺損	粘液性連菌	

ドベツ
形膿
成ス

一六	田中某女	七	同	四・三・一〇	右急性化膿性 乳突炎起急性	亞急性 (四ヶ月)	特殊ノ影像ヲ呈 強ク減弱チ	蜂窠一様ニ	右	左	不明	部S字狀實上膝	「カリエス」	不明	
一七	一宮某男	二八	同	四・六・一四	右急性化膿性 乳突炎起急性	急性 (三ヶ月)	輪廓ハ極メテ緩 像周邊性融解	像周邊性融解	右	左	V	後頭蓋高前壁	骨缺損	粘液性連菌	
一八	鈴木某女	一三	同	五・八・一一	左急性化膿性 乳突炎起急性	急性 (五十日)	S字狀溝前縁ノ 輪廓ハ一部分 ニ於テ影像不明	像多發性融解	右	左	IV	後頭蓋高前壁	骨缺損	菌非溶性性連	
一九	加藤某男	一六	同	五・一〇・一八	右急性化膿性 乳突炎起急性	亞急性 (五ヶ月)	同	蜂窠一様ニ	右	左	V	錐體後壁	瘻孔	溶血性連菌	
二〇	村松某女	一五	同	五・六・二	左急性化膿性 乳突炎起急性	急性 (四ヶ月)	S字狀溝前縁像 ハ上下兩膝ノ中 間部ニ於テ不明	像多發性融解シ	右	左	不明	S字狀實周圍	骨缺損	同	
二一	小藤某男	三九	同	六・三・一	右急性化膿性 乳突炎起急性	急性 (五十日餘)	部ニ限局セル後上 縁ノ強キ透明像	像周邊性融解	右	左	II	後頭蓋高側壁	骨缺損	粘液性連菌	
二二	佐々木某女	四	同	六・六・一二	兩急性化膿性 中耳炎起急性	急性 (二ヶ月)	特殊ノ影像ヲ呈 融解像強度ノ呈	蜂窠全般ニ	右	左	不明	後頭蓋高前壁	「カリエス」	連菌	
二三	福井某男	四七	同	六・六・八	左急性化膿性 乳突炎起急性	急性 (二ヶ月)	同	像周邊性融解	右	左	IV	後頭蓋高前壁	骨缺損	粘液性連菌	
二四	木村某女	四九	同	六・五・五	右急性化膿性 乳突炎起急性	急性 (三ヶ月)	錐體部輪廓ノ一 部ニ影像ノ破壞 ル融解像	像全般ニ	右	左	I	錐體後壁	骨缺損	同	糖尿病性 膿性迷路炎

備考 乳嘴蜂窠型Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵナル記號ハ義江論文聽器ノ「レントゲン」學的研究(其一)中ニ詳記シアルヲ以テ、之ヲ參照セラレタシ。

次ニ此「レ」線所見ト手術所見トヲ比較觀察ニ便センガタメニ、今少シク詳細ニ表記センニ次ノ如シ。

第二 表

症 例	番 號	第一	第二	昭和三年七月三十一日撮影	昭和三年八月二日手術	昭和三年十月
患 者	線 所	左 側	蜂窠範圍中等大ニシテ中細胞性、細胞配列ハ影像濃度ノ減弱ノタメニ明瞭ナラザル部分多キモ、所々不規則ナル部分ヲ認ム。錐體尖端部ハ一般ニ密質性ニシテ、濃厚ナル骨像ヲ呈ス。乳嘴蜂窠ハ一般ニ大イニ其ノ影像濃度ヲ減弱シ、骨融解ハ蜂窠全般ニ進行セルヲ思ハスルモ、殊ニ突起ノ周邊部即チ鰾骨根部、鰾狀部、尖端後部ニ於テハ完全ナル融解像ヲ呈シ、多發性融解像ヲ呈セルモノト言フヲ得ベシ。乳嘴天蓋部ノ影像即チ錐體尖端部ヨリ輕度ノ變曲ヲ造リテ、乳嘴突起ノ上部ナ後上方ニ走ル強キ線影ハ、乳嘴突起ノ上方ニ位スル一ノ融解像ノ範圍内ニ於テ、約一徑ノ部分ガ全ク斷斷シ、完全ニ破壞セラレタルノ像ヲ呈ス。此ノ部ニ存スル融解像ハ不規則ナル形狀ヲ呈スモ、透明度強ク、全ク細胞ヲ缺キ、周圍部分ハ明瞭ナル「レントラスト」ヲ以テ境セラル。S字狀溝ノ影像全ク不明。錐體尖端部ニハ全ク細胞像ヲ認メズ且ツ異常透明ノ部分ヲモ認メズ。(本會報第三十八卷、第一號、義江論文附圖第二十三圖參照)			
			左側 蜂窠發育稍不良ニシテ、鰾骨根部、鰾狀部、乳嘴突起ノ前半部トニハ小細胞性ノ蜂窠ヲ見ルモ、乳嘴突起ノ尖端部並ニ後半部ハ板障性海綿樣ノ影像ヲ呈ス。錐體周圍部ハ小細胞性ノ蜂窠發育良好ナリ。乳嘴實及此ノ周圍部ニ強度ノ濃質性陰影ヲ有シ、影像ハ濃厚ナル遮蔽ヲ呈スモ、之ヨリ周邊部ニ進ムニ從ヒ影像濃度ノ度ヲ減ズ。即チ鰾骨根部、鰾狀部、錐體尖端部ノ蜂窠ハ尙含氣性ノ像ヲ呈シ、其他ノ部分ノ蜂窠モ乳嘴實及其			
			右側 蜂窠狀態ハ極メテ左側ニ類似シ、乳嘴突起ノ後半ハ海綿樣ノ影像ヲ呈ス。一般ニ小細胞性ニシテ、			
健 見	側	右 側	蜂窠發育良好ナルモ、鰾骨根部、鰾狀部ノ蜂窠ヲ認メズ。蜂窠配列規則的ニシテ、細胞ノ大サ中等大、S字狀溝ノ前緣像稍肥厚セルモ、其ノ位置形狀ニ異常ヲ認メズ。錐體尖端部亦蜂窠發育良好ニシテ、小細胞性ノ像明瞭ナリ。			
手 術 所 見	手 術 所 見	乳 嘴 蜂 窠	乳嘴蜂窠ハ一樣ニ細胞骨壁脆弱トナルモ、乳嘴凹面ノ骨面ニハ未ダ全ク變化ヲ認メズ。乳嘴蜂窠ハ一般ニ肉芽ヲ以テ充タサル、モ、突起ノ尖端部ト鰾骨根部、鰾狀部ニ於ケル蜂窠ヲ除キテハ未ダ明瞭ナル融解像ヲ造ルニ至ラズ。乳嘴突起ノ後上部ニ於テ、乳嘴天蓋ノ一部ハ中頭蓋窩底ノ外側ニ移行スル部分ニ於テ約指頭大ノ範圍ガ破壊セラレ、此部ニ中頭蓋窩ノ硬腦膜露出シ、其ノ表面肉芽狀ニ肥厚ス。鰾狀部ノ融解像ハ此ノ硬腦膜ノ露出部ヲ圍ミ、稍多量ノ濃厚ナル膿汁ヲ有シ、此部ニ鑿チ入ルト同時ニ多量ノ膿汁流出ス。天蓋部ノ骨缺損部ヨリ硬腦膜ト骨壁トノ間ヲ後方ニ約一・五徑消息可能ニシテ、此部ニ硬腦膜外膿瘍ノ擴ガレルヲ認ム。			
			乳嘴突起ノ後上方、外聽道上棘ヨリ約四徑後上方ニ至レル部分ニ限局セル骨膜下膿瘍アリ。乳嘴凹面ノ骨ニ變化ヲ認メズ。乳嘴實ハ小豆大、之ヨリ尖端部ニ至ル細胞ト共ニ稍蒼白ナル肉芽ヲ充滿セルモ、更ニ膿汁ヲ認メズ。是等ノ細胞壁ハ未ダ堅牢ニシテ全ク融解像ヲ認メズ。「レント」線所見ニ從ヒ、突起ノ後上方ニ鑿開ヲ進ムルニ、初メテ一ノ大ナル孤立性ノ融解像ニ達シ、此部ヨリ濃厚ナル膿汁多量ニ湧出ス。			

影撮日三月

術手日四月

第三

昭和三年一月十三日

昭和三年二月一日

ノ周圍細胞ヲ除ケバ輕度ノ遮蔽ヲ呈スルノミニシテ、蜂窠部ニハ未ダ融解像ヲ全ク認ムル能ハズ。然ルニ乳嘴突起ノ後上部即チ上隅角部ニ於テハ、約一錢銅貨大ノ範圍ニ亘リ骨ノ構造全ク不明ナレバ、透明度強キ部分ヲ見ル。此部ハ大體ニ於テ圓形ヲ呈シ、上方ニ於テハ天蓋部ノ線影ト極メテ密接セルモ、之トノ境界明確ニシテ天蓋部ノ影像ヲ破壞セル所ヲ見ズ。前方及後方ニ於テモ其ノ境界明瞭ナルモ、下方ニ於テハ其ノ境界稍々明確ナキ、漸次板障性ノ影像ニ移行ス。尙ホ此ノ透明部ノ前上方ニ當リ、米粒大ノ更ニ透明度強キ部分ヲ有スルヲ認ム。S字狀溝ノ影像ハ全ク不明ナリ。

細胞ノ配列ハ殆ド規則的ナリ。錐體部ノ蜂窠モ左側ニ類シ小細胞性ニシテ蜂窠發育良好ナリ。蜂窠部、類骨根部ニハ蜂窠像ヲ認メズ。S字狀溝ノ像ハ全ク不明ナリ。

此部ヲ蔽フ乳嘴突起ノ外側骨壁ハ乳嘴高ト顛頂骨痕トノ殆ド中間部ニ於テ、帽針頭大ノ骨痕ヲ形成シ深部ノ膿瘍ト完全ニ交通セルモ、其他ノ部分ニハ全ク變化ヲ認メズ。後頭蓋高側壁ノ硬腦膜ハ此ノ膿瘍部ニ於テ約小指頭大ノ範圍ニ亘リテ露出シ、表面暗赤色ヲ呈シ、肉芽狀ニ肥厚ス。此部ヨリ後方ニ續キテ硬腦膜外ニ大ナル膿瘍ヲ形シ、之ヲ覆ヘル骨壁ヲ鉗除スルニ硬腦膜ハ約一錢銅貨大ニ肉芽狀ニ肥厚ス。

左側

乳嘴實ト此ノ周圍トニ二、三ノ細胞像ヲ見ルモ、其他ハ骨融解像ノ爲ニ不明ナリ。錐體尖端部ノ像ハ明瞭ナラザルモ、一般ニ板障性ノ像ヲ呈ス。乳嘴實部ニハ不規則ナル形ヲ呈セル豌豆大ノ透明像ヲ見ル。乳嘴蜂窠ハ一般ニ溶解シ、乳嘴實周圍部分ヲ除キテハ其ノ影像ヲ認メ難ク、殊ニ上隅角部ヨリ乳嘴突起ノ前下部ニ至ル乳嘴突起ノ中間部ハ帶狀ヲ呈シテ乳嘴蜂窠像ノ全ク不明ナル部分ヲ認ム。此部ハ大體ニ於テ周圍トノ境界明瞭ナルモ、之ヲ詳細ニ觀察スルニ、前上方ニ於ケル境界ハ稍々不明瞭ナルモ、後方ニ於ケル境界ハ明瞭ナル線ヲ以テS字狀ニ境セラル。此ノ蜂窠像ノ全ク不明ナル部分ハ一般ニ「ホモゲン」ニシテ、他部ニ比シ濃密性ノ陰影稍々強シ。蜂窠部ト乳嘴尖端部ノ後上方ニ走ル乳嘴突起ノ後邊部トニハ所々尙殘存セル細胞壁ノ像ヲ認メ得ルモ、已ニ其ノ影像濃度ヲ減弱シ、所ニヨリテハ却ツテ細胞間壁ノ肥厚セル影像ヲ呈セル部分アリ。S字狀溝前緣ト思ハル、影像ハ明瞭ナラザルモ乳嘴突起ヲ前後ニ二分スルガ如ク、後上方ヨリ前下方ニ弱キ「コントラスト」ヲ成シテ走ル部分ハ、其ノ位置ヨリS字狀溝ノ像ト考ヘラル。之ヲ要スルニ、乳嘴突起内ヲ後上方ヨリ前下方ニ斜ニ走ル帶狀ヲナセル。「ホモゲン」ノ陰影ハ骨融解ノ影像ナリト考ヘラル。

(第二圖)

右側

蜂窠範圍稍々大、細胞配列不規則ニシテ、所々細胞間壁ノ不規則ニ肥厚セル所ヲ見ル。S字狀溝ノ像ハ之ヲ辛ウジテ識別シ得ラル、ノミ。錐體部ハ密質性ノ像ヲ呈ス。

骨膜下膿瘍ナシ。乳嘴實ト其ノ周圍ノ細胞ハ一部分融解シ、肉芽ト膿汁ト含有セル小指頭大ノ空洞ヲ形成ス。之ヨリ突起ノ後方、上隅角部ニ至ル部分ト尖端部ニ至ル部分トハ極メテ小細胞性ノ蜂窠ヲ有シ細胞壁ハ已ニ極メテ脆弱ナリ、所々溶解シ、細胞内腔ハ肉芽ヲ以テ充タサル。後頭蓋高前壁ノ硬腦膜ハS字狀溝上膝部ヨリ約二糧下方ノ高サニ相當セル部位ニ於テS字狀實壁ノ一部ト共ニ指頭大ニ露出シ表面暗赤色ヲ呈シ、肉芽狀ニ肥厚ス。骨壁ノ破壞部ト硬腦膜トノ間チ上方ニ約二糧消息可能ニシテ、消息ニ際シテ濃厚ナル膿汁多量ニ流出スルヲ認ム。此ノ膿瘍ノ近クノ骨ハ恰モ骨髓炎樣ノ變化ヲ呈シ、稍々出血性ニ富ム。乳嘴尖端部ノ内側壁ニ小ナル瘻孔ヲ形成シ、膿汁ハ此部ヲ經テ頸部ニ流下セルヲ知レリ。

四年三和昭 月四年同	第五	影滌日一十月四年三和昭 術手日二十月四年 同	第四	番 號	症 例
					「Ⅰ」線所
					患側
	右側 蜂窠發育良好ニシテ、蜂窠範圍廣汎、大小種々ノ細胞混合シ、其ノ配列不規則ナリ。錐體尖端部ハ板障性ノ影像ヲ呈シ、細胞像ヲ認メズ。乳嘴蜂窠ハ錐體部ノ蜂窠ニ至ル迄一樣ニ濃湛性ニ陰影ヲ有シ、錐體部、乳嘴突起部ニ於ケル蜂窠ハ一樣ニ其ノ影像濃度ヲ減弱ス。併シ鱗狀部ト乳嘴突起ノ前半部トニ於テハ、尙蜂窠像比較的明瞭ニシテ變化ハ主トシテ突起ノ後半部ニ存スルヲ見ル。即チ強度ノ周邊性融解像ヲ呈シ、乳嘴突起ノ後邊ニ存スル細胞ハ後上部ヨリ尖端部ニ亘リ、悉ク殆ド完全ナル溶解融合ノ像ヲ示シ、透明度強キ大ナル	左側 蜂窠範圍中等大、中細胞性ニシテ、錐體部ニモ中細胞性ノ蜂窠像ヲ認ム。鱗狀部、顳骨根部ニモ同様ノ蜂窠像ヲ認ム。乳嘴蜂窠ハ一般ニ影像ノ濃度ヲ減弱セルモ上隅角部ニ存スル蜂窠ハ他ノ部分ニ比シ其ノ影像濃度強ク細胞像比較的明瞭ニシテ、孤立的ニ強キ陰影ヲ有ス。乳嘴窩ヨリ乳嘴尖端部ニ至ル蜂窠ハ之ニ反シ、一見透明度強ク、細胞間壁ノ影像濃度ハ已ニ大ニ減弱シ、極メテ纖細非薄トナリ、所々骨壁破壊ノ像ヲ認ム。S字狀溝前縁ハ大體ニ於テ克ク識別スルコトヲ得ルモ、其ノ線ハ纖細トナリ、濃度ヲ減弱シ、細力キ鋸齒狀ヲ呈シ、所々影像ノ離斷セル部分ヲ見ル。殊ニS字狀溝上膝部ノ前縁ハ此部ニ存スル全ク細胞像ヲ缺如セル「ホモゲン」ノ強キ透明部ノ中ニ位シ、極メテ不鮮明ナリ。此ノ強度ノ透明部ハS字狀溝上膝部ニ一致シ、示指頭大ノ範圍ヲ有シ、周圍トノ境界極メテ明確ナリ。錐體部ハ一樣ニ稍強ク影像ノ遮蔽ヲ呈スモ融解像ハ之ヲ認メズ。(本會報第三十八卷、第一號義江論文附圖第二十二圖參照)			
					健側
	左側 蜂窠發育良好ニシテ蜂窠範圍中等大、大小種々ノ細胞混合シ、其ノ配列極	右側 蜂窠範圍ハ左側ニ類似スルモ鱗狀部顳骨根部ニ蜂窠像ヲ認メズ。一般ニ小細胞性ノ影像ヲ呈スモ、乳嘴突起ノ後縁部ニ稍大ナル細胞ヲ有シ、細胞配列ハ不規則ナリ。細胞間壁ハ一般ニ肥厚シ、乳嘴窩及其ノ周圍部分ニ於テハ影像ノ「コントラスト」弱シ。S字狀溝ハ其ノ影像不明ナリ。			見側
	外總道上棘ヨリ約一握後方ノ乳嘴坦面ノ一部ハ暗赤色ヲ呈シ、此部ニ小ナル一ノ瘻孔ヲ有ス。此部ノ骨ヲ鉗除スルニ、深部ヨリ多量ノ濃厚ナル膿汁搏動性ニ流出ス。乳嘴窩、竇周圍細胞ハ肉芽ト膿汁トヲ充滿セルモ未ダ融解スルニ至ラズ。乳嘴突起ノ後上部ニ肉芽ヲ充タセル一ノ融解竇ヲ有シ、此部ヨリ後上方ニ約二五握、前下方ニ約一握消息可能ナリ。此	乳嘴窩部ニ大ナル骨膜下膿瘍アリ。乳嘴窩ニ小ナル一ノ瘻孔アリ。乳嘴突起内ハ一ノ大ナル溶解空洞ヲ形成シ多量ノ肉芽ト膿汁トヲ充タス。S字狀窩周圍細胞ハ已ニ完全ニ融解シ、橫溝骨壁亦脆弱トナリ、所々破壊シ竇壁ヲ露出セルモ、竇ニハ全ク變化ヲ認メズ。S字狀溝上膝部ノ骨壁ハ小指頭大ニ破壊セラレ、深部ヨリ多量ノ膿汁流出ス。竇壁ハ此部ニ於テ肉芽狀ニ肥厚シ、稍々暗赤色ヲ呈スモ、竇血栓ヲ證明セズ。此ノ骨壁ノ破壊部ヨリ骨壁ト竇壁トノ間ニ消息子ヲ後上方ニ挿入スルニ、約二握消息可能ニシテ、此際更ニ少量ノ膿汁流出ス。依テ更ニ後方ニ橫溝骨壁ヲ鉗除スルニ、此部モ橫竇壁ハ肉芽狀ニ肥厚ス。鱗狀部、顳骨根部ノ蜂窠ハ未ダ融解スルニ至ラザルモ、肉芽ト膿汁トヲ充滿ス。			手術所見

空洞様ノ影像ヲ形成ス。此ノ乳嘴突起後邊部ノ融解像中ニハ、所々未ダ完全ニ溶解セザル細胞間壁像ヲ認ムルモ、細胞ハ數多溶解融合シテ一ノ大ナル水泡様ノ影像ヲ呈シ、更ニ上方ハ鱗狀部ノ細胞トモ融合セントスルノ像ヲ見ル。此ノ融解部ト未ダ細胞像明瞭ナル突起ノ前半部トノ境界ハ比較的明確ニシテ大體ニ於テ後上方ヨリ前下部ニ走ル一ノ彎曲セル線即チS字狀溝前縁ノ影像ニヨリテ境セラル。此ノS字狀溝前縁ノ影像ハ上腔部近クニ於テ約二種餘ノ範圍ニ亘リ破壊セラレタルガ如ク、此部分ノ影像ハ全ク不明ナリ。此ノ破壊部ニ一致シテ透明度最モ強キ融解像ヲ認ム。是等ノ點ヨリ骨融解ノ部分ハ主トシテS字狀溝ニ沿ヒテ其ノ外側ニ存スル乳嘴蜂窠部ニ最モ強ク、更ニ橫溝骨壁ノ一部モ破壊セラレタルヲ思ハシム。(第三圖)

左側

乳嘴蜂窠ノ範圍、細胞配列ノ狀態ハ強度ノ骨融解ノタメニ、之ヲ全ク觀察スルコト能ハズ。錐體尖端部ハ板障性ノ影像ヲ呈ス。乳嘴蜂窠ハ一般ニ其ノ影像不明ニシテ、僅カニ隅角部ノ一部ニ細胞像ヲ殘存スルノミ。乳嘴實及此ノ周圍部分ハ示指頭大ノ透明度強キ空洞様ノ融解像ヲ呈シ、更ニ之ニ續キテ隅角部ノ一部分ヲ除キ、殆ド乳嘴突起全體ヲ占ムル一ノ極メテ大ナル透明度強キ影像ヲ認ム。此兩者ノ融解像ハ乳嘴實周圍ニ殘存セル一、二ノ細胞間壁ノ影像ニヨリテ微カニ境界セラル。後者ハ周圍トノ境界前者ニ比シ遙カニ明確ニシテ其ノ大サハ大體ニ於テ鳩卵大、上部ハ稍々狭ク、下部ニ至リテ大、其ノ前縁並ニ後縁ハ「J」字狀ノ「ラスト」稍々強キ平滑ニ彎曲セル境界線ヲ造ル。乳嘴尖端部ニ於テハ、融解部トノ境界ハ明確ニ缺キ、漸次板障性ノ影像ヲ呈セル尖端部ニ移行スルヲ見ル。S字狀溝ノ影像ハ全ク不明ナリ。(第四圖)

メテ不規則ナリ。細胞間壁ハ所々極メテ不規則ニ肥厚シ、細胞内腔ト強キ「コントラスト」ヲ示ス。S字狀溝ノ像不明、錐體尖端部ハ板障性ノ像ヲ呈ス。

右側

乳嘴蜂窠ノ範圍ハ小ニシテ、僅カニ乳嘴突起ノ前方三分ノ一ヲ占ムル一過ギズ。後方三分ノ二ノ部分ハ一般ニ板障性ノ影像ヲ呈ス。蜂窠部ハ小細胞ノ像ヲ呈シ、配列ハ規則的ナリ。S字狀溝前縁ノ影像極メテ明瞭ニシテ稍々其ノ位置前方ニ偏ス。錐體部ハ影像稍々明瞭ナラザルモ、板障性ノ像ヲ認ム。

部ヲ大キク開クニ、S字狀溝ハ其ノ上腔部ヨリ下腔部近ク迄後頭蓋窩側壁ノ一部ト共ニ、廣範圍ニ破壊セラレ、S字狀實ハ其ノ上腔部ヨリ下方約四種露出シ、表面ハ多量ノ肉芽ト膿汁トヲ以テ覆ハル。後頭蓋窩ノ硬腦膜モ其ノ外側ニ於テ一部露出シ、表面肉芽ト膿汁トヲ以テ覆ハル。即チ大ナルS字狀實周圍膿瘍ナリ。天蓋部ニハ變化ヲ認メズ。顔骨根部ノ細胞ハ所々融解セル部分アルモ、尙細胞ノ構造明瞭ナル所多シ。

乳嘴窩ヨリ遙カニ後方、乳嘴突起ノ後縁部ニ近ク大ナル骨膜下膿瘍ヲ形成シ、更ニ此ノ膿瘍ハ同側ノ項筋ノ一部ニ沿ヒテ下方ニ流下セルヲ認ム。乳嘴窩部ノ骨ハ已ニ極メテ菲薄ナリ、暗青色ヲ呈ス。乳嘴實部ノ細胞ハ已ニ溶解融合シ、之ヨリ尖端部ニ至ル部分モ殆ド融解シ、缺レモ多量ノ肉芽ヲ以テ充滿ス。尖端部ハ板障性ノ構造ヲ有ス。S字狀溝ノ外側ニ存スル蜂窠ハ完全ニ融解シ、後頭蓋窩前壁ノ一部ハS字狀溝ノ上下兩腔中間部ノ高サニ於テ、S字狀溝ニ沿ヒテ細長ク上下ニ約二種「カリエス」トナリ、此部ノ硬腦膜ハ強ク肥厚シ、表面暗赤色ノ肉芽ヲ以テ覆ハレ、大ナル硬腦膜外膿瘍ヲ形成ス。此ノ骨疽性ノ部分ヨリ後方ヲ消息スルニ更ニ約二種餘ノ消息可能ニシテ、之ト共ニ多量ノ濃稠ナル膿汁流出ス。依テ更ニ乳嘴突起ノ後邊部ニ向ヒテ、後頭蓋窩側壁ノ硬腦膜ヲ廣ク露出ス。此部ヲ覆ヘル骨壁ハ後頭乳嘴縫合部ニ至ルマデ脆弱ナリ、後頭乳嘴縫合ノ一部ニ小ナル瘻孔ヲ形成シ、之ニヨツテ此部ニ存スル骨膜下膿瘍ハ内部ノ硬腦膜外膿瘍ト完全ニ交通ス。

症例 番號	患 者	線 所	健 見 側	手 術 所 見
第七	右側 蜂窠範圍大ニシテ左側ニ類ス。細胞ノ配列ハ大體ニ於テ規則的ナルモ、乳嘴突起ノ邊緣部ハ融解像ノ爲ニ不明ナリ。錐體尖端部ノ一部ニ小細胞性蜂窠ノ明瞭ナル像ヲ認ム。乳嘴突起ハ一般ニ細胞像明瞭ナルモ、影像濃度ハ著シク減弱シ、透明度強キ部分アリ。變化ハ主シテ突起ノ後邊部ニアリテ、周邊性融解ノ像ヲ呈ス。融解部ハ境界明瞭ナル限局性空洞ニ透明像ハ之ヲ造ルコトナキモ、乳嘴突起ノ後上部ヨリ中央部ニ及ンデ細胞像不明ナル所ヲ有シ、所ニヨリテ顆粒狀ノ細胞像ヲ呈スル部分ヲ見ル。乳嘴突起ノ後上縁ニハ「ホモゲン」ノ完全ナル骨融解像ヲ思ハシムル影像ヲ有スルモ、之ガ融解像ナリヤ否ヤハ連續影像ヲ行フ能ハザリシヲ以テ不明ナリ。S字狀溝ノ像ハ全ク不明ナリ。 (第五圖)	左側 蜂窠範圍大、細胞配列ハ大體ニ於テ規則的ナルモ乳嘴突起ノ後邊部ニ於ケル細胞ノ二、三ハ異常ニ大ナリ。細胞間壁ハ周邊部ニ於テハ稍々強ク肥厚セルノ像ヲ呈スモ、不規則ニ肥厚セル部分ハ之ヲ認メズ。錐體尖端部ノ影像明瞭ナラザルモ、一部ニ明瞭ナル小細胞性ノ蜂窠像ヲ認ム。S字狀溝ノ影像ハ全ク不明ナリ。	乳嘴面ノ骨及骨膜ノ異常ナシ。乳嘴竇ハ大豆大ニシテ淺ク、内部ニ肉芽ト膿汁ト充タスモ、未ダ竇及其ノ周圍細胞ハ共ニ溶解スルニ至ラズ。外聽道後壁ニ沿ヒテ小ナル骨溶解部ヲ認ムルモ、尖端部ニハ尙ホ細胞間壁堅牢ニシテ所々肉芽ヲ有スルノミ。後頭蓋高ノ前壁ト側壁ト一部トヲ圍ミテ細胞ノ發育良好ニシテ、一般ニ其ノ細胞間壁脆弱トナレルモ、未ダ融解スルニ至ラズ。上隅角部ニ於ケル細胞亦發育良好ニシテ已ニ融解セル部分多ク、肉芽ト多量ノ膿汁トヲ有ス。後頭蓋高前壁ハ此部ニ於テ一部融解シ、此部ニ硬膜ハ小指頭大ニ露出シ、表面肉芽狀ニ強ク肥厚ス。此部ヨリ後頭蓋高前壁ト硬膜トノ間ニ消息子ヲ後下方ニ約二・五握挿入スルコトヲ得ルモ、此際全ク膿汁ノ流出ヲ認メズ。	
第八	右側 蜂窠範圍左側ニ類シ、細胞配列規則的ナリ。錐體部ノ蜂窠像不明。蜂窠一樣ニ彌蔓性陰影ヲ呈ス。一般ニ細胞ハ其ノ影像濃度ヲ減退シ、「コントラスト」弱キ影像トナレルモ、未ダ明瞭ナル融解像ヲ示スニ至ラズ。乳嘴突起ノ後上部ニ於ケル蜂窠ハ、其ノ細胞間壁ノ一二ハ其ノ影像濃度ヲ大イニ減弱シ、不明瞭トナリ、細胞ハ爲ニ顆粒狀ヲ呈セルヲ認ム。乳嘴突起後邊部ノ凡ソ中央部ニ於テ、邊緣部ヨリ殆ンド水平ニ走ル稍々太キ乳嘴導血管ノ像ヲ見ルモ、S字狀溝ノ影像ハ全ク不明ナリ。 (第九圖)	左側 蜂窠範圍中等大、細胞配列規則的ナルモ、顚骨根部ニ一ノ大ナル細胞ヲ認ム。細胞間壁ハ所々稍肥厚セル像ヲ呈ス。錐體部ハ蜂窠發育良好ニシテ小細胞性ノ像ヲ呈ス。S字狀溝ノ像不明ナリ。	乳嘴高部ノ骨膜稍々肥厚セルモ骨膜下膿瘍ノ形成ナシ。乳嘴竇及ビ其周圍細胞ハ稍々蒼白ナル肉芽ト濃厚ナル膿汁トヲ充滿シ、未ダ融解スルニ至ラズ。之ヨリ乳嘴尖端部ニ至ルマデハ極メテ變化ニ乏シク、尖端部ノ二、三ノ細胞ニ僅カニ肉芽ヲ見ルノミ。乳嘴突起ノ後上縁ニ於ケル終末細胞ハ既ニ溶解融合シ後頭蓋高前壁ノ一小部分ハ「カリエス」狀ヲ呈ス。此部ヨリ硬膜ト骨トノ間ヲ下方ニ約一・五握消息スルコトヲ得、消息ニ際シテ濃厚ナル膿汁多量ニ流出ス。依テ更ニ下方ニ鑿開スルニ、硬膜ハ約拇指頭大ノ範圍ハ其表面肉芽狀ニ肥厚シ、此部ニ硬膜外膿瘍ヲ形成ス。	

第九

左側

凡右
皆側

乳嘴高部ヨリ後方、乳嘴突起後縁部ニ亘レル大ナル

一〇

左側

症 例	番 號	線 所		手 術 所 見	
患 側	第一	右側 蜂巢範圍ハ左側ニ比シ稍々狭小ナルモ、中細胞性、配列殆ンド規則的ナリ。錐體部ハ密質性ノ濃厚ナル影像ヲ呈ス。蜂巢ニ様ニ彌蔓性陰影ヲ呈シ、一般ニ影像濃度ヲ減ジ不鮮明ナリ。S字狀溝ノ像ハ縊細ナル「コントラスト」弱キ線ヲナスモ明確ナリ。之ヨリ後部ハS字狀溝ニ沿ヒテ上下ニ走ル透明度極メテ強キ「ホモゲン」ノ完全ナル融解像ヲ呈ス。此大ナル周邊性融解像ノ後縁ハ明確ナル境界ヲ示シ、境界線ハ平滑ナル後方ニ突出セル小ナル波個ノ弧ヲ畫キテ、乳嘴突起ノ後縁部ヲ形成スル板障性ノ部分ト明確ニ境界ス。即チ周邊部蜂巢ノ溶解融合シ一ノ大ナル空洞ヲ形成セルモノト思考ス。乳嘴導血管部ノ像明瞭ナリ。S字狀溝前縁ノ像ハ上唇部ニ於テ影像濃度極メテ弱ク、一小部分離斷セルヲ認ム。(第八圖)	左側 蜂巢發育良好、中細胞性、細胞配列ハ大體ニ於テ規則的ナルモ、乳嘴突起ノ中央部ニ一部不規則ナル部分アリ。錐體部ハ小細胞性蜂巢發育良好。細胞間壁ハ其濃度ヲ減弱シ、一部ニ「コントラスト」弱キ影像ヲ形成ス。乳嘴高部ニ約小指頭大ノ透明度強キ融解像ヲ形成モ、其他ノ部分ハ著明ナル融解像ヲ呈セズ。最モ著明ナル所見ハ乳嘴突起ノ後邊部ニ於テ、突起ノ後縁ニ沿ヒテ上下ニ細長キ明瞭ナル透明部ヲ有スル約二・五厘米、此部ハ大體ニ於テ紡錘形ヲ呈シ、長サ約二・五厘米、幅約一・五厘米ノ全ク「ホモゲン」ノ影像ヲ呈ス。周圍トノ關係ヲ見ルニ、前方蜂巢部トハ厚キ明瞭ナル細胞像ヲ以テ明確ニ境界ラル、モ、他ノ三方ハ境界明確ナリト雖モ前者ニ於ケルガ如ク「コントラスト」強キ線ヲ以テ境界サル、コトナシ。上隅角部ノ細胞ハ一部顆粒狀ヲ呈スモ、之ト下方ノ透明部トハ境界明瞭ナリ。(第九圖)	患 側	健 側
	第二	右側 蜂巢範圍狭小、小細胞性、細胞配列不規則、乳嘴窩ハ小豆大ノ像ヲ呈シ含氣性ニ富ム。隅角部ノ蜂巢發育良好ナルモ、乳嘴尖端部、後邊部ニハ蜂巢發育ヲ見ズ。S字狀溝前縁ノ影像極メテ明瞭ニシテ其位置正常。錐體部ハ密質性ノ像ヲ呈ス。	左側 蜂巢範圍廣汎ニシテ中細胞性、細胞配列一般ニ規則的ナルモ、乳嘴突起ノ後邊部殊ニ尖端部ノ後縁ニ當リ異常ニ大ナル細胞ヲ有ス。錐體部ハ其尖端ニ至ル迄小細胞蜂巢發育良好、錐體部孤形隆起部ノ直下ニモ明瞭ナル細胞像ヲ認ム。乳嘴蜂巢ハ一般ニ極メテ含氣性ニ富ミ細胞内腔ト細胞骨壁トノ「コントラスト」強シ。S字狀溝ノ影像全ク不明。	患 側	健 側
影撮日九十二月四年四和昭 術手日十三月四年 同		第一二		第二	
影撮日六十二月四年四和昭 術手日五月五年 同		第一二		第二	

乳嘴突起ノ後縁部ニ大ナル骨膜下膿瘍アリ。乳嘴導血管孔ト思ハル、部分ヨリ膿汁搏動性ニ流出ス。此部ノ周圍ニ於ケル骨壁ハ約拇指頭大ノ範圍ニ亘リ極メテ菲薄ナリ。乳嘴蜂巢ハ一般ニ其間壁脆弱トナリ將ニ融解セントスルノ狀ヲ呈スモ、蜂巢構造明瞭ナリ。乳嘴突起ノ後邊部ニ於テハ、後頭蓋窩側壁ノ一部ハS字狀溝ノ後方ニ於テ約示指頭大ニ破壊シ、硬腦膜ハ此部ニ長サ約二厘米、幅約一・五厘米ノ範圍ニ於テ肉芽狀ヲ呈シ、此部ニ大ナル硬腦膜外膿瘍ヲ形成ス。而シテ此膿瘍ハ乳嘴突起後邊部ノ骨膜下膿瘍ト乳嘴導血管孔ヲ以テ相交通ス。	乳嘴窩部ノ骨面ハ甚ダ菲薄、外聽道上棘直後部ニ極メテ小ナル瘻孔ヲ有ス。骨膜下膿瘍ナシ。乳嘴突起ノ内部ハ肉芽ト濃厚ナル膿汁トヲ充滿セル一ノ大ナル空洞ト化ス。S字狀窩ハ稍々前方ニ偏移シ、橫竇周圍細胞ハ悉ク融解シ盡シ、大ナル膿瘍ヲ形成ス。隅角部細胞モ其橫溝上膝部ニ接セル部分ハ溶解シ、此部ニ後頭蓋前壁ハ拇指頭大ニ破壊シ、大ナル硬腦膜外膿瘍ヲ形成ス。後頭蓋窩ノ硬腦膜ハ此部ニ於テ柔カキ暗赤色ノ肉芽ヲ以テ覆ハル。
--	--

右側

蜂巢範圍左側ニ類シ、中細胞性ニシテ配列規則的ナリ。撮影ニ際シテ頭位稍、正確チ缺キ、之ガ爲ニ錐體部ノ投影範圍狭小トナリ、其影像亦極メテ鮮明度チ缺キ此部ノ蜂巢狀態判然タラズ。乳嘴突起ノ蜂巢ハ全般ニ互リテ強度ノ漸減性陰影ヲ呈スモ、錐體部ノ變化ハ不明ナリ。乳嘴突起ノ上部即チ鱗狀部ニ於テ約一錢銅貨大ノ範圍ハ極メテ透明度強ク、此部ハ周圍トノ境界比較的明確ナルモ、境界部ノ「コントラスト」ハ弱シ。此透明部ハ全ク蜂巢像チ缺如シ、其形不規則、骨部分ノ缺損チ思ハス。(第十圖)

左側

蜂巢範圍中等大、中細胞性。細胞配列規則的ノ如キモ細胞像ハ融解ノタメ明瞭チ缺ク。錐體尖端部ハ板障性ノ像ヲ呈ス。S字狀溝ノ像不明。乳嘴蜂巢ハ錐體部チ除キ一般ニ影像濃度チ減弱シ、細胞間壁ハ一般ニ甚ダ不明瞭ニシテ「コントラスト」弱キモ、細胞壁ハ一樣ニ肥厚セルノ像ヲ呈シ、細胞ハ顆粒狀ヲ呈スル部分多シ。尖端部ニハ尙ホ一、二細胞間壁ノ濃厚ナル線影ヲ見ルモ、細胞像不明。乳嘴突起ノ後上部ニ於テ、乳嘴天蓋ノ直下ニ約一錢銅貨大ノ稍、腎臟形ノ極メテ透明ナル部分チ有シ、此部ニハ全ク細胞像チ缺如ス。此部ハ周圍トノ境界極メテ明瞭ナルモ、其ノ部ノ「コントラスト」弱シ。上方ハ天蓋部ニ密接セルモ、天蓋部ノ影像ニハ破壞部チ認メズ。前方ハ蜂窠部ニ接セルモ、其ノ境界線ハ平滑ニシテ極メテ明確ナリ。後方及ビ下方ハ乳嘴突起ノ後緣部ニヨツテ境セラル。(第十一圖)

左側

蜂巢發育良好、中細胞性ニシテ配列狀態殆ンド正常、僅カニ乳嘴突起後邊部ニ稍、異常ニ大ナル細胞ノ一、二チ認ムルノミ。錐體尖端部ハ板障性ノ影像ヲ呈ス。S字狀溝ノ位置ニ異常チ認メズ。乳嘴蜂巢ハ其間壁ノ影像菲薄ニシテ、内腔トノ「コントラスト」強ク、殆ンド理想的正常ノ像ヲ呈ス。

右側

蜂巢範圍中等大ニシテ、乳嘴突起ノ輪廓ハ左側ニ類似ス。中細胞性ナルモ隅角部ニ稍、大ナル細胞アリ。配列一般ニ規則的ナルモ、尖端部ニ近ク不規則ナル部分アリ。錐體部ハ板障性ノ像ヲ呈ス。S字狀溝前後即チ錐體部ノ後方ノ境界ハ全ク不明ナリ。

乳嘴坦面ノ骨ニ異常ナシ。乳嘴竇ハ小豆大、乳嘴蜂巢ハ一般ニ未ダ溶解スルニ至ラズ。殊ニ尖端部ノ蜂巢ハ稍、小細胞性ニシテ、未ダ完全ナル構造チ保有シ、細胞壁堅牢ナリ。變化ハ主トシテ鱗狀部、天蓋部ニアリ。鱗狀部細胞ハ已ニ全ク溶解シ、乳嘴天蓋部ノ一部チ破壞シ、中頭蓋窩底ノ硬腦膜ハ此部ニ指頭大ニ露出シ、表面暗赤色ヲ呈ス。此部ニ大ナル硬腦膜外膿瘍チ認ム。頰骨根部ノ蜂巢ハ所々融解シ少量ノ膿汁チ有ス。

乳嘴竇ハ小豆大、之ヨリ尖端部ニ至ル部分ハ細胞壁極メテ脆弱トナリ、將ニ溶解セントヘルノ狀ヲ呈ス。細胞内腔ハ一般ニ稍、蒼白ナル肉芽チ充タシ、所々少量ノ膿汁チ有ス。乳嘴尖端部ノ細胞ハ其ノ構造比較的ヨク保存セラルルモ、内腔ニ少量ノ肉芽チ有ス。乳嘴突起ノ後上部ニハ上隅角部ニ向ツテ一ノ細長キ骨融解體チ有シ、内ニ少量ノ膿汁チ有ス。之ニ沿ヒテ後上方ニ鑿開チ進メ後頭乳嘴縫合部附近ニ達スルニ、乳嘴突起ノ創腔ヨリ約二厘餘距タレル部分ニ約指頭大ノ骨破壞部チ有シ、大ナル硬腦膜外膿瘍チ認ム。後頭蓋窩外側ノ硬腦膜ハ此部ニ於テ強ク肉芽狀ニ肥厚ス。此ノ膿瘍ノ位置ハS字狀溝上膝部ノ後上方ニ位シ、乳嘴突起ノ後邊部ニ當ル。

症 例	番 號	第一五	影 撮 日 六 月 二 十 年 四 和 昭	術 手 日 九 月 二 十 年 同	第一六	影 撮 日 一 十 月 三 年 四 和 昭	術 手 日 一 十 月 三 年 同	
患 者	「レ」	線 側 所	右側			右側		
			蜂窠範圍ハ左側ニ類似スルモ、稍鱗狀部ノ蜂窠發育不良ナリ。錐體部ノ蜂窠モ左側ニ類似ス。乳嘴窩周囲及ビ鱗狀部ノ細胞ハ強度ノ陰影ヲ呈シ、細胞壁強ク肥厚シ顆粒狀ヲ呈スルモ、未ダ破壞スルニ至ラズ。外聽道後壁ニ接セル細胞ハ明瞭ナルモ、乳嘴突起ノ中央部ヨリ後方ト尖端部トニ亘リ、大ナル透明度強キ部分ヲ有シ、此部ニ全ク細胞像ヲ認メズ。此ノ透明度強キ影像ハ約一錢銅貨大ニシテ、下方ト後方トハ乳嘴突起ノ外側骨壁ノナス強キ線ニヨリテ境界明瞭ナルモ、前上方ニ於テハ尙ホ殘存セル蜂窠像ニ漸次的ニ移行シ、境界判然タラズ。S字狀溝ハ其ノ上膝部ニ於テ明瞭ナル影像ヲ呈スモ、夫ヨリ以下ハ下膝部ニ至ル迄全ク不明ナリ。即チS字狀溝前緣ノ影像ハ上下兩膝中間部ニ於テ破壞セラレタルガ如ク、然カモ此部ハ前述セル透明部ノ中ニアリテ、S字狀溝前緣像ハ下膝部ニ至リ再ビ明瞭トナル。(第十二圖)			乳嘴突起ノ大サ及ビ輪廓ハ大體ニ於テ左側ニ類似スルモ、蜂窠狀態ハ融解像ノ爲ニ不明ナリ。S字狀溝ノ前緣ハ極メテ明確ニ強度ノ「コントラスト」ヲナシテ乳嘴突起ノ中間部ヲ走ル。錐體尖端部ハ板障性ノ強キ呈ス。乳嘴窩部ト其ノ周圍部分トハ溶解融合シ、像ヲ呈明像ヲ形成セルモ、尙ホ一、二ノ微カナル細胞壁ノ像ヲ認ム。尖端部ノ蜂窠モ已ニ不明瞭ナリ、影像濃度ヲ減弱セルモ、所々顆粒狀ノ蜂窠像ヲ認ム。S字狀溝側部及ビ後部ニハ細胞像ナク、上膝部ニ示指頭大ノ極メテ透明ナル部分ヲ有ス。S字狀溝前緣像ニハ全ク破壞部ヲ認メズ。(第十三圖)		
健 側	見 側	側	左側			左側		
			蜂窠範圍中等大、鱗狀部ノ蜂窠發育良好ナルモ、額骨根部ニハ細胞像ヲ認メズ。細胞配列極メテ不規則ニシテ、大小種々ノ不規則ナル細胞相錯雜ス。乳嘴尖端部ニハ異常ニ大ナル二、三ノ細胞像ヲ認メ、細胞間壁ハ所々大イニ肥厚ス。錐體尖端部ハ小細胞性ノ蜂窠發育良好、S字狀溝ノ像不明ナリ。			蜂窠發育良好ニシテ乳嘴突起ノ後邊部ニ僅カニ蜂窠像ヲ缺ケル部分アル。細胞配列規則的ナラザルガ如キモ、含氣度良好。S字狀溝ノ影像ハ上膝部附近ニ稍明瞭ナルノミ。錐體部ハ板障性ノ像ヲ呈ス。		
手 術 所 見			骨膜下膿瘍ナシ。乳嘴窩ハ稍深部ニ存シ小豆大、其ノ周圍細胞ト共ニ多量ノ肉芽ヲ充滿スルモ膿汁ヲ有セズ。其他ノ乳嘴蜂窠ハ大部分全ク融解シ、後頭蓋窩前壁ニ相當セル部分ヨリ多量ノ膿汁搏動性ニ流出ス。S字狀窩ト之ニ隣接セル後頭蓋窩ノ硬腦膜ハ上下兩膝ノ中間部ニ於テ約二厘餘ノ長サニ露出シ、全而厚キ肉芽ヲ以テ覆ハル。擡肥チ錐體後壁ノ全長ニ亘ツテ深部ニ進ムルニ、錐體後部ノ稍頭靜脈窩ノ方向ニ極メテ大ナル深在性硬腦膜外膿瘍ヲ認ム。			乳嘴坦面ノ骨面ニ肉眼的ニ異常ヲ認メザルニ、小ナル骨膜下膿瘍アリ。乳嘴蜂窠ハ完全ニ融解セル大ナル膿瘍ト化シ、多量ノ肉芽ト膿汁トヲ充滿ス。S字狀溝ハ稍前方ニ突出シ、其ノ上膝部ノ前壁ノ一部ハ骨痘性ニシテ、此ノ部ヲ錯除スルニ深部ヨリ多量ノ膿汁湧出ス。依テS字狀溝骨壁ノ一部ヲ更ニ下方ニ錯除スルニ、竇ノ周圍ニ大ナル膿瘍ヲ認ム。竇ハ稍暗青色ヲ呈シ、竇壁ハ輕度肥厚セルモ、表面平滑ニシテ肉芽狀ヲ呈セズ。		

昭和五年八月二十三日 第一九	昭和五年八月二十三日 第一八	昭和四年六月十四日 第一七
<p>右側 蜂窠範圍、細胞配列ハ骨融解ノタメ不明、蜂窠一様ニ漸莖性陰影ヲ呈シ、影像濃度著シク減退ス。乳嘴實部ハ強度ノ陰影ヲ有スモ、其他ノ部ハ細胞像不明瞭トナリ、所々膨大シ顆粒狀ヲナセル部分ヲ見ル。S字狀溝ハ乳嘴突起ノ後上方ヨリ前下方ニ走ル帶狀ヲナセル一ノ透明帶トシテ認メ得ルモ、其前後兩緣ハ共ニ平滑ナ</p>	<p>左側 蜂窠範圍廣汎ニシテ、細胞配列ハ骨融解ノ爲ニ明瞭ナラズ。錐體尖端部ハ小細胞性蜂窠發育良好ナリ。乳嘴蜂窠ハ一般ニ漸莖性陰影ヲ呈シ、錐體ヲ除キ、他ハ一様ニ影像濃度ヲ減弱シ、細胞像不明瞭ナリ。乳嘴實部ハ不規則ナル形ヲ呈セル透明像ヲ呈シ、此部ニ骨融解ノ存スルヲ思ハシム。鱗狀部ノ一部ト隅角部ニモ透明度強キ融解像ヲ認ム。S字狀溝前緣ノ像ハ其ノ上脰部以下ハ明瞭ナル一ノ彎曲セル線ヲナスモ之ヨリ上方ハ明確ナル線影ヲ缺キ、細胞壁ノ一部ト考ヘラル、平滑ナラザル線ニ移行ス。S字狀溝前緣ヨリ後方ハ細胞像全ク不明ニシテ所々殘存セル一部ノ細胞像僅チ見ルノミ。乳嘴突起後緣部ノ輪廓ハ極メテ不明瞭ナリ(第十五圖)</p>	<p>右側 蜂窠範圍狭小ニシテ、蜂窠狀態並ニ乳嘴突起ノ輪廓ハ左側ニ極メテ類似ス。S字狀溝ノ前緣像ハ稍前方ニ突出ス。乳嘴蜂窠部ハ一般ニ輕度ノ漸莖性陰影ヲ呈シ、乳嘴實部及ヒ其ノ周圍細胞ノ影像明瞭ナリ。然ルニ周邊部ニ於ケル蜂窠ハS字狀溝ノ上下兩脰中間部ニ相當スル高サニ於テ、強度ノ融解像ヲ呈シ透明度強シ。此ノ透明部ハ周圍トノ境界明確ナラズ、漸次其ノ影像濃度ヲ増加シツツ周圍ニ移行ス。尙ホ此ノ融解像ノ中央ヲ走ルS字狀溝前緣ノ影像ハ其ノ濃度ヲ大ニ減弱セルモ、破壊シ離斷セラレタル部分ヲ認メズ。(第十四圖)</p>
<p>左側 蜂窠範圍中等大、中細胞性、細胞配列規則的。錐體部ノ影像不明。S字狀溝ノ影像ハ蜂窠像ノタメ</p>	<p>右側 蜂窠範圍極メテ廣汎、稍小細胞性ニシテ細胞配列規則的ナリ。錐體尖端部モ蜂窠極メテ良好、左側ヨリモ稍大ナリ。S字狀溝ノ像明瞭ニシテ位置ニ異常ヲ見ズ。</p>	<p>左側 蜂窠範圍狭小ニシテ、蜂窠部ハ乳嘴突起ノ前方約三分ノ一ヲ占ムルノミ。稍小細胞性ニシテ配列規則的、尖端部ハ板障性、後上部ト錐體部トハ實質性ノ像ヲ呈ス。S字狀溝ハ其ノ像不明ナリ。</p>
<p>乳嘴面ノ骨ハ極メテ菲薄、乳嘴高部ヲ開クニ濃厚ナル多量ノ濃汁湧出ス。乳嘴實ハ周圍蜂窠ト共ニ溶解融合スルモ、其他ノ部分ハ細胞壁極メテ脆弱トナレルモ未ダ全ク溶解スルニ至ラズ。S字狀實周圍ノ蜂窠ヲ上下兩脰ノ中間部ニテ鑿除スルニ、深部ヨリ多量ノ濃汁湧出ス。實壁ヲ此部ヲ中心ニ上下ニ廣ク鑿出スルニ、實ハ腦内壓昂進ノ爲カ外側ニ稍ハ膨隆突出ス。實ノ表面ハ一部輕度肉芽狀ヲ呈スルモ肥厚</p>	<p>乳嘴實ハ小豆大、實周圍部ニ一部溶解セル所アリ。鱗狀部ハ殆ンド全般溶解融合シ、外聽道上部ニ於テ中頭蓋窩ノ硬腦膜小指頭大ニ露出セルモ、表面異常ナシ。乳嘴突起ノ後邊部ニ近ク柔カキ多量ノ肉芽ヲ有シ、此間ヨリ濃厚ナル濃汁搏動性ニ湧出ス。此肉芽ヲ徐々ニ擡爬スルニ、後頭蓋窩ノ前壁ハ上隅角部ヨリS字狀溝下脰部近クマデ約三厘餘破壞消失シ、骨缺損部ハ破壞部ノ骨遊離緣ト硬腦膜ノ露出部トヨリ發生セル硬キ肉芽ニヨリテ完全ニ閉塞ス。此肉芽ノ間ヲ消息スルニ、後上方ニ約一・五厘消息可能ニシテ此際多量ノ濃汁湧出ス。即チ硬腦膜外膿瘍ハ多量ノ肉芽ニヨリテ周圍部ト完全ニ遮斷閉塞セラレタルモノナリ。</p>	<p>乳嘴高部ノ骨ニ一ノ小瘻孔アリテ濃汁湧出ス。乳嘴實ト此ノ周圍ニ二、三ノ小細胞ヲ認ムルモ、其他ノ細胞ハ融解シ構造不明ナリ。S字狀溝上脰部ノ後下方ニ於テ後頭蓋窩前壁ノ一部破壞セラレ此部ニ硬腦膜外膿瘍ヲ形成ス。硬腦膜ハ小指頭大ニ露出シ、表面肉芽狀ヲ呈ス。後頭蓋窩壁ヲ更ニ鉗除スルニ、硬腦膜ハ此部ヨリ更ニ後上方ニ肉芽狀ヲ呈シ、長サ約二厘、幅約一厘ノ範圍ハ強ク肥厚ス。</p>

影撮日八十
術手日八十

ラズ。殊ニ後縁部ハ極メテ境界不規則ナリ。S字狀溝前縁ノ影像ハ上下兩膝ノ中間部ニ相當シテ「コントラスト」弱キ限局性ノ透明部ヲ有シ、此部ハ其前方ノ骨融解像ト相連絡ス。S字狀溝ノ後方ニ乳嘴導血管孔ノ像明瞭ナリ。(第十六圖)

明瞭ナラザルモ、多数ノ細胞網ト交叉シツ、太キ線ヲ畫キテ走ル。

著シカラズ。竇ノ搏動著明ナラザルモ、穿刺ノ結果多量ノ出血ヲ認ム。膿汁ノ流出部ハ上隅角部ヨリ錐體ノ後面ニ深部ニ入りタル所ニシテ、内聽道附近ニ達スル深キ瘻孔ヲ造リ、之ニ沿ヒテ廣ク鑿開スルニ錐體後面ニ於ケル大ナル深在性硬膜瘻外膿瘍ヲ認ム。

症例
番號

患

「レ」

線

側

所

健

見

側

手

術

所

見

第二〇

影撮日二月六年五和昭
術手日三月六年同

左側
蜂窠範圍中等大、錐體尖端部ハ板障性、細胞配列ノ狀態ハ骨髓解高度ノタメ全ク不明ナリ。乳嘴竇部ニ不規則ニ大ナル一ノ融解像ヲ呈シ、周圍トハ濃厚ナル骨壁像ヲ以テ明確ニ境セラル。乳嘴突起ノ其他ノ部分ハ所々乳嘴竇ニ向ヒ放射狀ニ走ル細胞間壁ノ殘存部ヲ認メ得ルモ、其他ハ全ク細胞像ヲ消失セル透明度強キ「ホモゲン」ノ影像ヲ呈ス。殊ニ乳嘴突起ノ後邊部ハ最も透明度強ク、僅カニ乳嘴竇ノ方向ニ走ル一ノ淡キ線ヲ有スルノミ。S字狀溝前縁ハ其上下兩膝部ニ於テハ明瞭ナルモ、兩者ノ中間部ハ明確ナル線影ヲ缺如シ、一見極メテ不明瞭ニシテ僅カニ鈍キ「コントラスト」ノ差異ニヨリテ前縁ヲ知ルヲ得。隅角部、鱗狀部ノ蜂窠モ全ク不明、二、三ノ放射狀ニ走ル細胞間壁像ニヨリテ蜂窠範圍ヲ知ル。乳嘴天蓋ノ影像ハ隅角部ニ於テ一部不明ナリ。(第十七圖)

右側
蜂窠範圍狭小、乳嘴竇周圍及ビ鱗狀部ニ小細胞性ノ蜂窠像明瞭ナルモ、其他ノ部分ハ板障性ノ像ヲ呈ス。S字狀溝ハ稍々透明度強キ明瞭ナル像ヲ呈ヘモ、前縁ハ上膝部ニ於テ明確ナル線影ヲ缺如シ上部ノ密質性ノ骨部ト極メテ鈍キ「コントラスト」ヲナス。

大ナル骨膜下膿瘍アリ。乳嘴窩部ニ小指頭大ノ骨破壊アリテ、此部ヨリ多量ノ膿汁搏動性ニ湧出シ、怒責ニ際シ此部ニ存スル肉芽ハ外方ニ突出ス。乳嘴突起ハ一ノ大ナル融解空洞ヲナシ、内ニ多量ノ肉芽ト膿汁トヲ充滿ス。乳嘴突起ノ後方ニ長サ約三釐、巾約一・五釐ノ範圍ニS字狀溝骨壁破壊消失シ、此部ノ硬膜瘻ハ暗赤色ヲ呈セル肉芽ヲ以テ強ク肥厚シ、大ナルS字狀竇周圍膿瘍ヲ形成ス。

第二一

九月三年六和昭
十月三年同

右側
蜂窠範圍、細胞配列、大サ、錐體尖端部ノ影像ハ左側ニ類似ス。乳嘴蜂窠ハ錐體部ニ至ル迄一般ニ稍々強度ノ潮濕性陰影ヲ呈ス。乳嘴突起ノ後上隅ニ一ノ大ナル明確ナル融解像ヲ認メ、其他ノ部分ハ影像濃度ヲ減弱セルモ細胞網ハ明瞭ナリ。乳嘴突起ノ後上隅ニ存スル此融解像ハ約一錢銅貨大ニシテ、全ク細胞像ヲ缺如シ上方ハ乳嘴天蓋ノ直下ニ、後方ハ乳嘴突起ノ後邊部ニ

左側
蜂窠範圍中等、稍々小細胞性ニシテ配列規則ナルモ、乳嘴突起ノ後上隅ニ稍々大ナル細胞群ヲ認

乳嘴窩ノ稍々後上方ニ小ナル骨膜下膿瘍アリ。乳嘴窩部ヨリ稍々後下方ノ骨面ニ小指頭大ノ壞死性破壊部アリ。乳嘴坦面ハ平坦ナラズ。深キ乳嘴鱗狀破裂ヲ存ス。乳嘴竇ハ深部ニ存シ、其周圍細胞ト共ニ溶解融合シ肉芽ト膿汁トヲ充滿セル小指頭大ノ空洞ヲ形成ス。之ヨリ尖端部ニハ殆んど變化ヲ認メズ。S字狀溝ハ稍々強ク側方ト前方トニ偏シ、此前壁ニハ變化ナキモ、此後方即チ乳嘴突起後邊部ノ蜂窠ハS

影撮日
術手日

至リ、前方ト下方トハ乳嚙蜂窠像ト明瞭ニ境ス。此透
明部ハ其形不規則、周圍トノ境界平滑ナラズ。尙ホ境
界線メテ明瞭ナルモ、全ク細胞像ノ如キ「コントラス
ト」強キ線影ヲ有セズ。(第十八圖)

第二二

昭和六年六月二十日
同 術手日

右側
蜂窠狀態ハ骨髓解ノタメニ不明ナルモ、乳嚙突起ノ輪
廓ハ左側ニ極メテ類似ス。錐體尖端部ハ密質性、乳嚙
突起ノ輪廓ハ明瞭ナル線ニヨリテ明カナルモ、内部ハ
一ノ大ナル透明度強キ影像ト化シ、蜂窠像ヲ全ク缺如
ス。乳嚙實周圍ニ、二ノ細胞壁像ノ像ヲ見ルモ極メ
テ明瞭ナキ。S字狀溝ハ其ノ前縁極メテ淡キ線ヲ畫
キテ走り、詳細ニ觀察シテ初メテ之ヲ認ムルヲ得(第
十九圖)

第二三

昭和六年六月二十日
同 術手日

左側
蜂窠範圍廣汎、稍小細胞性、細胞配列ハ大體ニ於て規則
的ナリ。錐體尖端部ハ板障性ノ像ヲ呈ス。乳嚙蜂窠ハ
一樣ニ強度ノ濃度陰影ヲ呈シ、乳嚙實ハ豌豆大ノ明
瞭ナル像ヲ呈ス。此ノ周圍細胞ノ間壁ハ所々肥厚シ、
不鮮明トナリ、細胞ハ顆粒狀ヲ呈ス。周邊部ハ影像濃
度ナ一般ニ減弱シ、殊ニ蜂狀部ト隅角部トハ明瞭ナ
ル融解像ヲ呈ス。其他ノ部分ニハ未ダ全ク融解像ヲ認
メズ。S字狀溝ノ影像全ク不明ナリ。(第二十圖)

第二四

昭和六年六月二十日
同 術手日

右側
蜂窠範圍ハ左側ニ類似ス。乳嚙蜂窠全般ニ互リ強度ノ
濃度陰影ヲ呈シ、細胞像ハ殆ド不明ナリ。乳嚙突起
ノ蜂窠ハ強ク其ノ影像濃度ヲ減弱シ、透明度強ク、蜂
狀部ト隅角部ト一部トニ辛ウジテ細胞像ヲ認メタルノ
ミ。錐體部ノ影像明確ナキ。所見不明ナリ。S字狀
溝ノ像全ク不明。(第二十一圖)

△。一般ニ含氣度良好ニ
シテS字狀溝ノ像不明ナ
リ。

左側

乳嚙蜂窠ノ狀態ハ骨髓解
ノ爲ニ全然不明。錐體尖
端部ハ密質性ノ像ヲ有ス
乳嚙蜂窠ハ一ノ大ナル透
明ナル融解像ヲ示シ、S
字狀溝ノ前縁ハ融解像ノ
中ヲ後上方ヨリ前下方ニ
明瞭ナル線ヲ畫キテ走ル

右側

蜂窠範圍ハ左側ニ類似セ
ルモ、中細胞性ニシテ配
列不規則、所々異常ニ肥
厚セル細胞壁ヲ有ス。蜂
窠ハ極メテ含氣度良好ナ
リ。錐體部ハ板障性ノ像
ヲ呈ス。S字狀溝ノ像不
明。

左側

蜂窠範圍廣汎、中細胞性
ニシテ規則的ナル細胞配
列ヲナスモ、隅角部ニ稍

字狀溝ヲ後方ヨリ圍繞スルガ如ク、一様ニ將ニ溶解
セントスルノ狀ヲ呈シ、所々小ナル融解像ヲ造ル。
S字狀溝ノ上部ノ後部ニ後頭蓋窩側壁ノ一部ハ約一
錢銅貨大ニ破壞缺損シ此部ニ大ナル硬膜外膿瘍ヲ
形成ス。

(右側)

大ナル骨膜下膿瘍アリ。乳嚙坦面ノ骨ニ小指頭大ノ
骨破壞部アリ。乳嚙蜂窠ハ一樣ニ全ク融解シ、内部
ニ肉芽ト膿汁ト多量ニ充滿セル大ナル融解像ヲ造
ル。後頭蓋窩前壁ノ一部ハS字狀溝兩膝中間部附近
ニ於テ一部分「カリエス」トナリ、此ノ部ヲ排除ス
ルニ深部ヨリ多量ノ膿汁湧出ス。此部ヲ消息スル
後上方ニ約二種消息可能ナリ。此部ノ硬膜外膿瘍ハ約海
指頭大ノ範圍ニ亘リ肉芽狀ニ肥厚ス。

骨膜下膿瘍ナシ。乳嚙實ハ大豆大ニシテ少量ノ肉芽
ト膿汁トヲ有ス。乳嚙實ノ周圍細胞ハ細胞壁堅牢ニ
シテ、之ヨリ尖端部ニ至ルマデ明瞭ナル融解像ヲ認
メズ。隅角部細胞ハ溶解融合シ、此部ニ接シテ後頭
蓋窩前壁ノ一部ハ橫竊上膝部ニ相當スル所ニ於テ、
約小指頭大ニ缺損シ、此部分ニ大ナル硬膜外膿瘍
ヲ形成ス。後頭蓋窩ノ硬膜ハS字狀溝ニ沿ヒテ、
其ノ上膝部ヨリ兩膝中間部ニ至ルマデ暗赤色ノ肉芽
ヲ以テ覆ハル。蜂狀部、額骨根部ノ細胞ハ強ク融解
シ、大ナル膿瘍ヲ形成ス。

大ナル骨膜下膿瘍アリ。乳嚙坦面ノ骨ニ小瘻孔アリ。
乳嚙實ハ稍深クシテ小豆大、此ノ周圍及之ヨリ尖端
部ニ至ル蜂窠ハ其ノ間壁ニ已ニ極メテ脆弱トナリ、所
々濃厚ナル膿汁ト肉芽ト充滿セル融解像ヲ認ム。
上隅角部ノ細胞ハ示指頭大ノ融解像ヲ形成シ、内ニ
多量ノ膿汁ト肉芽ト充滿ス。此部ニ接セルS字狀
溝ノ上部ノ前壁ハ一部破壞シ、膿瘍ヲ露出セルモ發
壁ニ變化ヲ認メズ。迷路周圍ノ蜂窠ハ比較的ヨク發

五月五日
五月六日
五月六日
手術日

錐體部攝影法ヲ以テ撮影セル影像ヲ見ルニ、錐體部ハ其ノ尖端ニ至ルマデ一樣ニ板障性ノ像ヲ呈シ、内聽道ノ影像明瞭ニシテ其ノ大サ正常ナルモ、内聽道孔ノ影像ハ全ク不明ナリ。錐體尖端部ニハ融解像ト認メラル、部分ナシ。錐體上段ノ輪廓ハ弧形隆起部ニ於テ、約一極ノ範圍ハ極メテ明確ニ破壞消失シ、此部ノ直下、骨性上半規管ノ影像ヲ圍ム骨部分ハ境界明瞭ナル透明像ヲ形成ス。骨性迷路ノ影像ニハ明瞭ナル變化ヲ認メズ。(第二十一圖b)

大ナル二、三ノ細胞像ヲ認ム。S字狀薄ノ前緣像明瞭ニシテ稍前方ニ偏移ス。錐體尖端部ニモ小細胞性蜂窠ノ像ヲ呈ス。

育シ、内部ニ少量ノ肉芽ヲ有ス。之ヲ隅角部細胞ノ殘存部ト共ニ深ク搔爬スルニ、骨性迷路ノ周圍ニ存スル小細胞群ハ内ニ少量ノ漿液性膿汁ヲ有シ、細胞壁ハ既ニ脆弱ナリ。之ヲ除去スルト同時ニ深部ヨリ多量ノ膿汁流出シ、深部ニ約二、五種消息可能ニシテ、此部ニ大ナル深在性硬腦膜外膿瘍ヲ認ム。錐體後面ノ骨壁ハ弧形隆起部ノ附近ニ於テ小指頭大ニ破壞缺損シ、此部ノ硬腦膜ハ一部分肉芽狀ヲ呈スモ他ハ結締織性ニ強ク肥厚シ、之ト骨トノ間ヲ錐體尖端部ニ消息スルニ再ビ少量ノ膿汁流出ス。

第四章 「レ」線像ノ綜括的觀察

是等二十四例ニ就テ、患側ノ乳嘴蜂窠ノ「レ」線像ヲ健側ノ夫レニ比較スルニ、孰レモ極メテ明瞭ナル影像ノ遮蔽ヲ示シ、其融解像ニ就テハ乳嘴蜂窠一樣ニ彌蔓性ノ融解像ヲ呈スルモノヨリ、極メテ廣汎ナル強度ノ骨融解像或ハ比較的小ナル限局性ノ融解像ニ至ル迄、其程度ニ大ナル差異ヲ有スト雖モ、孰レモ乳嘴突起ノ一個所或ハ數ヶ所ニ於テ、乳嘴蜂窠ノ影像濃度ノ明瞭ナル減弱、細胞壁ノ破壞消失ノ影像ヲ示ス。唯第八例ニ於テハ乳嘴突起ノ後上隅ノ一部ニ影像濃度ヲ減弱シ、顆粒狀ヲ呈セル細胞像ヲ認ムルノミニテ、未ダ明瞭ナル融解像ヲ示サズ。

今是等二十四例ニ見ラレタル融解像ヲ分類觀察スルニ次ノ如シ。

一、周邊性融解像ヲ呈スモノ 一三例 二、蜂窠全般ニ亘リ強度ノ融解像ヲ呈スモノ 六例

三、多發性融解像ヲ呈スモノ 五例 四、中心性融解像ヲ呈スモノ 一例

五、竇周圍性融解像ヲ呈スモノ ナシ 六、乳嘴蜂窠一樣ニ影像濃度ヲ減弱セルモノ 二例

以上二十七例ニ達スルモ、此中ノ二例ハ周邊性融解像ト多發性融解像トヲ併有セルモノニシテ、竇周圍性融解像ノミヲ單獨ニ有スルモノハ一例モ認メザルモ、他ノ融解像ト、モニ乳嘴竇部ニ不規則ニ大ナル透明部ヲ有スルモノハ三例ニシテ、此中二例ハ蜂窠全般ニ亘リ強度ノ融解像ヲ呈セルモノニ合併シ、他ノ一例ハ多發性融解像ノ一部トシテ認メラレタルモノナリ。

之ヲ以テ觀ルニ、周邊性融解像ヲ呈スモノ最モ多ク五〇・〇%ヲ占メ、乳嘴蜂窠全般ニ亘リ強度ノ融解像ヲ示スモノハ二・一%ニ相當ス。多發性融解像ヲ呈スモノ之ニ次ギ一九・三%ニシテ、其他ノ融解像ヲ呈セルモノハ孰レモ遙カニ少ク、僅カニ全例ノ七・六%ヲ占ムルニ過

「レ」線像		合併症	硬膜外膿瘍	合併症ナキモノ
蜂巢全體ニ溶解セルノ像ヲ呈ス			六 (二三・一)	二九 (二〇・〇)
中心性融解像			一 (三・八)	四六 (三一・七)
周邊性融解像			一三 (五〇・〇)	四五 (三一・〇)
多發性融解像			五 (一九・三)	一三 (九・〇)
實周圍性融解像		※	※	四 (二・八)
一様ナル薄莖性陰影ヲ呈スモ明瞭ナル融解像ヲ認メズ			一 (三・八)	八 (五・五)
合 計			二四 (一〇〇・〇)	一四五 (一〇〇・〇)

※單獨ニ出現セル實周圍性融解像ハ認メザルモ他ノ融解像ニ合併シテ出現セルモノヲ三例認メタリ。

ギズ。

次ニ之等硬膜外膿瘍ヲ合併セルモノニ於ケル乳嘴突起ノ骨融解像ノ狀態ヲ、尋常ナル經過ヲトレル急性乳嘴突起炎即チ合併症ヲ有セザリシモノ(骨膜下膿瘍ノ合併ヲ含ム)ノ示ス骨融解像ノ狀態ニ比較スルニ、上表ノ如シ。

次ニ硬膜外膿瘍ヲ合併セル之等二十四例ノ「レ」線寫眞ニ就テ、骨融解像ノ位置的關係、透明度、融解部ト周圍トノ對照度、S字狀溝或ハ天蓋部ノ影像トノ關係等ニ就テ、今少シク詳細ニ觀察セル結果ヲ綜括センニ、大體ニ於テ次ノ三類ニ分類スルコトヲ得。

第一類。乳嘴突起ノ一部ニ透明度極メテ強キ特殊ノ融解像ヲ認ムルモノ 五例 (二一・〇%)

第二類。頭蓋窩骨壁ノナス影像ノ一部ニ變化ヲ認ムルモノ 十一例 (四六・〇%)

a 乳嘴天蓋ノ影像ニ明瞭ナル變化ヲ認ムルモノ 一例

b S字狀溝ノ影像ニ明瞭ナル變化ヲ認ムルモノ 九例

c 錐體部ノ影像ノ輪廓ニ明瞭ナル變化ヲ認ムルモノ 一例

第三類。特殊ノ影像ヲ示ササルモノ 八例 (三三・〇%)

第一類ニ屬スル影像ヲ有スルモノハ第二、第一二、第一三、第一四、第二二ノ五例(二一・〇%)ニシテ、之等ノ「レ」線像ハ孰レモ乳嘴突起ノ邊緣部ニ極メテ明瞭ナル透明像ヲ有ス。此透明像ノ寫眞上ニ於ケル位置ヲ見ルニ、乳嘴突起ノ後上隅ニ存スルモノ三例、乳嘴突起ノ後邊部ノ中央ニ位スルモノ一例、鱗狀部ニ存スルモノ一例ナリ。此透明度強キ融解像ハ孰レモ其内部ニハ細胞ノ影像ヲ全ク缺如シ、周圍部分ニ對シテハ明瞭ナル「コントラスト」ヲナシ、兩者ノ境界明瞭ナリ。更ニ此融解部ノ範圍並ニ形狀ハ不規則ニシテ一定セザルモ、乳嘴突起ノ後上隅ニ存スル三例ニ於テハ、其大サ孰レモ約一錢銅貨大ニシテ、其形不正圓形ヲ呈シ、乳嘴天蓋像ノ後端部ノ直下ニ位ス。殊ニ其中

ノ第二、第一四ノ二例ニ於テハ、其位置、其範圍、其形狀極メテ相類似セルヲ見ル。

今之等ノ透明像ヲ急性乳嘴突起炎ノ「レ」線寫眞上ニ屢々目撃スル骨融解像即チ手術ノ結果「レ」線像ニ一致シテ比較的限局性ニ乳嘴蜂巢ノ溶解融合シ、然カモ乳嘴突起ヲ圍ム骨皮質ニハ未ダ何等ノ變化ヲモ認ムル能ハザルモノ、示ス骨融解像ニ比較スルニ、其影像ノ透明度ニ於テ、其位置ニ於テ、其範圍ニ於テ兩者極メテ相類似スルヲ見ル。然レドモ是等透明像ガ其周圍部分ニ對スル關係ニ就テ、今少シク仔細ニ之ヲ觀察スル時ハ、兩者ノ間ニ渺ナカラザル差異アルヲ認ムルニ至ラン。即チ通常ノ骨融解像ニ於テハ、透明部ノ中央ニ位スル所ハ細胞像ヲ全ク缺如スルカ或ハ最モ影像濃度ヲ減弱シ、之ヨリ其周邊部ニ至ルニ從ヒ、漸次的ニ影像濃度ヲ増強シ、細胞網ヲ増加シツ、非融解部ヘ移行シ、其境界明確ヲ缺クヲ常トス。時ニ周邊性融解像ノ中ニハ周圍部分トノ境界比較的確ナルモノモアルモ、之等モ多クハ其一部ハ之ニ隣接セル融解部ハ或ハ影像濃度ヲ減弱セル部分ト相通ジ、或ハ兩者間ニ密接ナル關係ヲ推定シ得ラル、ガ如キ狀態ヲ呈シ、或ハ又以上ノキ如關係ヲ有セザルモノニ於テモ、其透明部ノ邊緣ハ細胞骨壁ノ一部ヲ思ハスル稍々濃厚ナル細キ線影ヲ以テ明確ニ輪廓セラハ、ヲ見ル。然ルニ第一類ニ屬スル之等五例ノ融解像ハ、周圍部分トハ比較的平滑ナル境界線ヲ以テ區劃セラレ、透明部ハ全ク一樣ナル「ホモゲン」ノ影像ヲ呈シ、且ツ其境界部ニハ細胞壁ヲ思ハスルガ如キ線影ハ全ク之ヲ缺如ス。

次ニ硬腦膜外膿瘍ヲ合併セザリシ急性乳嘴突起炎ノ中限局性ノ骨融解像ヲ有シ、一見第一類ノ「レ」線像ニ極メテ類似セルモノニ就テ、其ノ「レ」線寫眞ヲ示シ、之ト第一類ニ屬スルモノニ於ケル融解像ヲ比較シ、以テ兩者間ノ相違點ヲ説明セン。

一、村井某。三十五歳、女。右側急性化膿性中耳炎並急性乳嘴突起炎。昭和四年八月十二日撮影。

乳嘴蜂巢範圍稍々狭小ニシテ、乳嘴尖端部ヨリ後邊部ニ亘リ一樣ニ密質性ノ影像ヲ呈ス。錐體部モ密質性ノ濃厚ナル影像ヲ呈シ、僅カニ錐體尖端部ニ一、二ノ小細胞性ノ像ヲ認ム。乳嘴實部一ハ強度ノ瀰蔓性陰影ヲ呈シ、細胞像明瞭ナラズ。乳嘴突起ノ中央部ト上隅角部トニ各々獨立セル融解像ヲ呈シ、兩者共ニ透明度強ク細胞像ヲ全ク缺如ス。然ルニ後者ニ於テハ、之ヲ仔細ニ觀察スルニ、透明部ノ中ニハ影像濃度極メテ弱キモ、細胞間壁ノ影像ハ強ク肥厚シ、一見雲狀ヲナシテ輪廓明瞭ヲ缺クモ、尙所々ニ細胞間壁ノ殘存部ヲ認ムルヲ得。且ツ又之等透明部ト周圍部分トノ境界ヲ見ルニ、兩者トモニ其ノ境界明確ヲ缺キ、次第ニ影像濃度ヲ増強シツ、周圍部分ニ移行シ、殊ニ乳嘴突起ノ後邊部ニ存スル密質性ノ部分トノ境界ニ於テスラ漸次的ニ移行スルヲ認ム。(第二十二圖)

二、引田某。十七歳、女。左側急性化膿性中耳炎並急性乳嘴突起炎。昭和四年四月十日撮影。

蜂巢範圍中等大ニシテ細胞配列不規則ナリ。一般ニ強度ノ瀰蔓性陰影ヲ有ス。錐體部ノ影像不明。乳嘴實及此周圍細胞ニハ強度ノ陰影ヲ有

シ、細胞像不明ナルモ、其他ノ部分ハ明瞭、所々顆粒狀ヲ呈ス。乳嘴突起ノ後下縁ニ透明度強キ「ホモゲン」ノ影像ヲ有ス。此透明部ハ周圍ニ對シテ極メテ明確ニ境セラレ、境界部ハ稍々明瞭ナル線影ニヨリテ強キ「コントラスト」ヲナス。一見大ナル終末細胞ノ影像ニ類似スルモ、内腔ニハ未ダ完全ニ融解スルニ至ラザル細胞間壁ノ殘存部ノ微カナル影像ヲ有シ、一方此透明部ハ上方ニ於テハ其境界稍々不明瞭トナリ、之ニ隣接セル周邊部細胞ノ融解像ニ移行シ、兩者密接ナル關係アルヲ認ム。(本會報第三十八卷、第一號、義江論文附圖、第十四圖並ニ附圖説明ヲ参照)

三、野原某。五十六歳、男。右側慢性化膿性中耳炎並同側急性乳嘴突起炎。昭和四年五月四日撮影。

蜂窠發育不良ニシテ、範圍極メテ狭小。蜂窠ハ乳嘴實周圍部ヨリ尖端部ノ一部分ニ至ル乳嘴突起ノ前方約三分ノ一ヲ占ムルニ過ギズ。乳嘴尖端部及後邊部ハ一般ニ板障性ノ像ヲ呈シ、錐體部ハ密質性ノ濃厚ナル影像ヲ呈ス。蜂窠部ハ一般ニ強度ノ彌蔓性陰影ヲ呈シ、細胞像明瞭ナラザルモ、未ダ明カナル融解像ヲモ認ムル能ハズ。最モ顯著ナル所見ハ隅角部ニ於ケル拇指頭大ノ限局性融解像ニシテ、此部ハ極メテ透明度強ク、全ク細胞像ヲ缺如ス。周圍トノ境界部ニハ細胞壁ノ如キ濃厚ナル線影ヲ缺如セルモ、明瞭ナル「コントラスト」ヲ造リ境界明瞭ナリ。然ルニ此透明部ノ前縁ニ於テハ、蜂窠部トノ境界一部明確ヲ缺ケル所アリテ、此部ノ細胞ハ顆粒狀ヲ呈シ將ニ融解セントスルノ像ヲ示シ、細胞間壁ノ一部ハ不明トナリテ後方ニ存スル透明部ト相連絡シ、兩者密接ナル關係アルヲ認ム。(第二十三圖)

以上三例ニ見ラレタル融解像ヲ第一類ニ屬スル「レ」線像中ノ透明部ニ比較スルニ、前者ニ於テハ其透明部ハ次第ニ其影像濃度ヲ減弱シツ、周圍部分ニ移行シ、透明部ト然ラザル部分トハ境界極メテ不明瞭ナルカ或ハ明瞭ナルモノニ於テハ第二例(引田某)ニ於ケルガ如ク、大細胞ノ融合シテ生ジタルモノニシテ、極メテ透明ナル影像ヲ呈スルニ拘ラズ、其邊緣ノ一部分又ハ大部分ハ明瞭ナル細胞骨壁ノ影像ヲ有ス。後者即チ第一類ニ屬スルモノニ於テハ、境界極メテ明確ニシテ透明部ハ直チニ影像濃度尙ホ強度ナル周圍部分ニ接シ、兩者ノ境界極メテ明確ナルニ拘ラズ周圍ニ細胞壁ノ影像ヲ缺如ス。唯第三例(野原某)一見ラル、ガ如ク、慢性中耳炎ニ於ケル、然カモ蜂窠發育不良ニシテ板障性或ハ密質性ノ乳嘴突起ヲ有スルモノニ於ケル炎症性骨融解ノ強度ナル影像ト第一類ニ屬スルモノニ於ケル透明像トハ極メテ類似シ、區別困難ナルコト尠ナカラザルガ故ニ、此ノ種ノ乳嘴突起ヲ有スルモノニ於テハ細心ノ注意ヲ要ス。

第二類ニ屬スル影像ヲ呈セルモノハ二十四例中十一例(四六・〇%)ニシテ、此中乳嘴天蓋ノ影像ニ明瞭ナル變化ヲ認ムルモノハ第一例ノ一例ニシテ、此影像ヲ見ルニ、天蓋部ノ造ル影像即チ錐體尖端部ヨリ輕度上方ニ彎曲シテ乳嘴突起ノ上部ヲ後上方ニ走ル濃厚ナル「コントラスト」強キ線影ハ、乳嘴天蓋ノ影像ニ跨ガリテ存スル融解像ノ範圍内ニ於テ、明瞭ニ離斷シ、一部分完全ニ消失セルノ像ヲ呈ス。即チ之

ニヨリテ此乳嘴天蓋像ノ破壊部分ハ之ニ隣接セル蜂窠ノ融解竈ト密接ナル關係アルヲ想像スルコトヲ得。即チ此天蓋部ノ破壊ハ骨融解ニヨリテ惹起セラレタルモノナルヲ推定スルコトヲ得。

S字狀溝ノ影像ニ明瞭ナル變化ヲ認メタルモノハ第三、第四、第五、第一一、第一五、第一七、第一八、第一九、第二〇ノ九例ニシテ、此中第五、第一五、第二〇ノ三例ハ上下兩膝部ノ前緣像ハ濃厚ナル影像ヲ呈シ、鮮明ナルニ拘ラズ、兩膝中間部ニ於テハ其前緣像ハ廣範圍ニ亘リ明瞭ナル缺損ヲ示シ、骨融解像ハ廣クS字狀溝前緣ヲ越エテ乳嘴突起後緣部ニ及ビ、然カモ此部ニ於テ融解最モ強度ナルモノニシテ、寶骨壁ノ破壁ヲ示ス影像ノ缺損ハ明カニ骨融解ニヨルモノナルコトヲ推定スルヲ得。又第三、第四ノ二例ニ於テハ、S字狀溝前緣ハ一般ニ其影像濃度ヲ強く減弱シ、第一八、第一九ノ二例ハS字狀溝前緣像ノ一部分ニ於テ影像ノ不明或ハ缺損ヲ呈シ、且ツ此變化ノ部分ハ骨融解像中ニアリ。第一一、第一七ノ二例ニ於テハS字狀溝ノ前緣像ハ此外側部ニ存スル蜂窠ノ強度ノ融解ニヨリテ、一般ニ極メテ纖細ナル線影トナリ、未ダ明瞭ナル離斷部ヲ有セザルモ、S字狀溝ノ存スル位置ニ一致シテ極メテ強度ノ透明像ヲ有シ、之ニヨリテ寶骨壁ニ變化アルヲ推定スルヲ得。

錐體上緣ノ一部ニ明瞭ナル輪廓破壊ノ像ヲ認メタルモノハ第二四ノ一例ニシテ、此影像ノ破壊部ニ一致シテ、上半規管ヲ圍ミテ小指頭大ノ透明ナル影像ヲ認ムルハ、迷路周圍蜂窠ノ融解竈ガ錐體後面ノ一部ヲ破壊セルモノト推定スルコトヲ得。

是等乳嘴天蓋、橫竇骨壁、錐體部骨面等ニ於ケル斯ノ如キ變化ヲ「レ」線寫眞上ニ影像ノ破壊或ハ影像ノ缺損トシテ證明セントスルニハ、此骨變化ハ一程度ニ進行セルモノタルヲ要シ、或ル程度ノ廣衰ヲ有シ、「レ」線ガヨク到達シウル部位ニ存シ、且ツ「レ」線ノ通過スル方向ニ對シテ正切スルガ如キ位置ヲ占ムルモノタルヲ必要トスルガ故ニ、「レ」線像上ニ明瞭ナル破壊像ヲ確實ニ證明センガ爲ニハ、以上ノ如キ諸條件ガ完全ニ充タサレタル時ニ於テ初メテ之ヲ能クスルヲ得ルモノニシテ、假令骨壁ノ一部ニ相當大ナル破壊、缺損アル場合ト雖モ、之ヲ孰レノ場合ニ於テモ常ニ「レ」線寫眞上ニ寫出セントスルハ殆ンド不可能ナリトス。殊ニ天蓋部ハS字狀溝ニ比シ其範圍極メテ廣ク、且ツ中頭蓋窩底ノ乳嘴突起内ニ突出セル骨面ノ彎曲度ハ、S字狀溝骨壁ノ夫レニ比シテ遙カニ小ナルガ故ニ、今兩者各々同一面積ヲ有スル缺損部ヲ有ストセバ、前者ニ於テハ骨面ノ彎曲率ハ後者ニ比シテ極メテ小ナルガ爲ト其解剖的位置トノ爲ニ、缺損部ガ「レ」線方向ニ對シテ正切ノ位置ヲ占メ得ル傾向尠ク、加之ニ其面積ノ大ナルガ爲ニ、「レ」線方向ニ一致セル平面内ニ存スル骨部分モ後者ニ比シテ遙カニ多ク、從ツテ之等「レ」線方向ニ一致セル部分ノ骨質ノ和ガ、影像ニ缺損ヲ生ジタリト雖モ此部分ニ相重疊シ、缺損部ヲ覆ヒ、以テ明確ナル影像ノ破壊ヲ認ムルコト困難ナルニ至ラシム。然ルニ後者ニ於テハ、其位置的關係ト共ニ橫溝骨壁ノ乳嘴突起内ニ突出セル部分ノ彎曲度並ニ其面積

比較的狭小ナルガタメニ、缺損部周圍ニ存シ且ツ「レ」線方向ニ一致セル骨質部ノ和ハ、前者ニ於ケルヨリモ遙カニ小ニシテ、之ガ影像ノ缺損部ニ重疊スル時ト雖モ、缺損部ノ餘リニ狭小ナラザル場合ニハ、之ヲ完全ニ不明ナラシムルニ至ラザル場合尠ナカラン。即チ之ニヨツテ觀ルニ、天蓋部ニ於ケル變化ハ橫竇骨壁ノ變化ヨリモ遙カニ「レ」線寫眞上ニ描出困難ナリト言フヲ得ベシ。

然リト雖モ、橫竇骨壁ニ存スル變化モ亦其「レ」線の觀察ハ決シテ容易ナルモノニ非ズ。S字狀溝骨壁ニ炎症性骨融解、骨破壊アル場合ニハ然カモ其位置ガ適當ナル場合ニハ、前記ノ九例ニ明瞭ニ認メラレタルガ如ク、影像ノ一部ニ透明部ヲ生ジ、或ハ一部分ノ影像缺損ヲ認メ得ルモノナルモ、此骨變化ガ餘リニ廣範圍ニ亘レル場合ニ於テハ、S字狀溝ノ像ハ大部分ニ亘リ極メテ不明瞭トナリ、「コントラスト」弱キ影像ト化シ、之ト解剖的關係ニ因リテ影像ノ不明瞭ナルモノトノ區別極メテ困難トナルニ至ルコトアリ。唯之ヲ仔細ニ觀察スル時ハ、後者ノ場合ニ於テハS字狀溝ノ影像ハ錐體後面部輪廓ノ全長ニ亘リ、即チ錐體上隅角部ヨリ後頭蓋窩底ニ至ル迄ノ廣範圍ノ部分ガ一樣ニ不明瞭ニシテ、一局部ニ限り不明瞭ナル部分ヲ呈スルコトナシト言ハル、ニ反シ、前者ノ場合ニ於テハ相當廣範圍ニ亘レル骨壁破壊アル場合ニ於テモ、尙ホS字狀溝ノ輪廓ハ其上膝部下膝部トニ於テハ明瞭ナルコト多ク、然カモS字狀溝ノ輪廓ノ破壊部ト乳竇蜂巢ノ骨融解像ノ一部トハ密接ナル關係アルヲ推察スルヲ得ル場合多シ。之ヲ第五、第一五、第一九、第二〇ノ症例ニミルモ極メテ明瞭ナル所ナリ。

第二類ニ屬スル全症例ニ於テ、S字狀溝ノ外側ニ相當セル部分ニ於ケル蜂巢部ハ強度ノ融解像ヲ呈シ、S字狀溝ノ影像ハ其一小部分或ハ大部分ニ亘リテ極メテ透明度ヲ増強セルノ像ヲ認ムルモ、Lawハ橫竇周圍膿瘍ニ際シテハ、S字狀溝骨壁ニ隣接セル蜂巢部ガ其影像濃度ヲ強く減弱シ、透明度強キ影像ヲ呈スルニ至ルト言ヒ、J. Boenteハ橫竇周圍膿瘍ノ「レ」線像ニハS字狀溝ヨリ外側部ニ存スル骨融解ノタメニ、S字狀溝ノ輪廓ハ大イニ鮮明トナルモノト却ツテ輪廓不明瞭トナルモノトノ二種アリト做セルモ、余等ノ症例ニ於テモ此S字狀溝ノ外側部ニ存スル骨質ノ影像濃度減弱ノ徵候著明ナリ。然ルニ此種ノ徵候ハ合併症ヲ有セザル急性乳竇突起炎ノ「レ」線像ニモ屢々認めラル、所ニシテ、之ニ就テ今合併症ヲ併發スルコトナク經過セル急性乳竇突起炎八四例ト骨膜下膿瘍ヲ形成セルモノ六一例、計一四五例ノ急性乳竇突起炎ノ「レ」線像ニ就テ、S字狀溝前緣部ヨリ後方ニ強度ノ融解像ヲ呈シ、S字狀溝ニ一致シテ影像ノ透明ナル部分ヲ有セルモノニ就テ檢スニ、一四五例中三三例即チ二二・〇%ヲ認メ、且ツ之等ノ手術所見中S字狀竇骨壁ノ破壊ヲ認メタル記載アルモノ六例ナルヲ以テ、一四五例中二六例、一八・〇%ハ竇骨壁ニ何等ノ變化ヲモ有セザルモノナリ。即チ之ヲ以テ觀ルニ、S字狀溝外側部ニ存スル骨部分ノ影像濃度ノ強度ノ減弱ハ、S字狀溝並ニ此周圍ニ於ケル膿瘍形成ノ場合ニ屢々見ラル、所ナルモ、尙ホ此種ノ影像アルガ故ニ橫竇周圍膿瘍ヲ形成セルモノトハ斷言スル能ハズ。

一方S字狀溝ノ輪廓ノ破壞ヲ「レ」線像上ニ早期ニ診定スルハ極メテ困難ニシテ、且ツ一小部分ニ於テ影像ノ破壞或ハ消失セル部分ヲ認メタリト雖モ、手術ノ結果ハ此部ニ骨壁ノ破壞ヲ證明スルノミニシテ、硬腦膜外膿瘍ハ全然之ヲ認メザル場合モ吾々ノ往々遭遇スル所ニシテ、之ヲ以テ觀ルニ、S字狀溝或ハ天蓋部ノ影像ニ明瞭ナル破壞像ヲ認ムルト雖モ、之ヲ以テ直チニ硬腦膜外膿瘍アリトモ推斷スル能ハズ。即チ茲ニ於テ、急性乳嘴突起炎ニ合併セル橫竇周圍膿瘍ハ之ヲ確實ニ指示スル決定的ノ「レントゲン」學的徵候ナシト言フヲ得ベシ。

錐體部ノ撮影法ニ於テハ「レ」線ハ大體ニ於テ錐體長軸ヲ垂直ニ通過シ、錐體部ヲ頭蓋底ノ影像中ニ埋沒スルヲ防ギ、且ツ錐體部ノ全長ヲ頭蓋底ノ濃厚ナル影像ノ上方ニ正シク投影センガ爲ニ、獨逸水平面ヲ稍々強ク顛倒側ニ傾斜セシムル結果、錐體ノ前後兩面が交ハリテナス錐體上角部ノ遊離線が錐體部ノ孰レノ部分ニヨツテモ全ク遮ギラル、コトナク、錐體部ノ影像ノ最モ上方ニ投影セラル、ガ故ニ、此隅角部ニ於ケル蜂巢ノ變化乃至骨壁ノ變化ハ、他ノ何レノ部分ヨリモ遙カニ容易ニ、遙カニ明瞭ニ「レ」線寫真上ニ描出スルコトヲ得。第二四例ニ於テモ、手術ノ結果迷路周圍蜂巢ト共ニ錐體上隅角部ノ蜂巢ハ溶解融合シ、錐體後面ノ骨壁ヲ弧形隆起部附近ニ於テ破壞セルヲ認メタリ。

第三類ニ屬スル影像ヲ呈セルモノハ第六、第七、第八、第九、第一〇、第一六、第二二、第二三ノ八例ナリ。此中第八、第二三ノ二例ハ乳嘴突起ノ後上緣ニ於ケル蜂巢像不明瞭トナレルモ、未ダ明瞭ナル骨融解像ヲ示スニ至ラザルモノ。第七、第九、第一〇、第一六ノ四例ハ乳嘴突起ノ一部殊ニ周邊部ニ明瞭ナル融解像ヲ示スモノ。第六、第二二ノ二例ハ乳嘴突起全般強度ノ融解像ヲ呈シ、殆ンド内部ノ構造ヲ識別シ得ザルモノナリ。是等八例ハ孰レモ其融解像が天蓋部或ハS字狀溝ノ影像ト如何ナル關係ヲ有スルモノナリヤ全ク不明ニシテ、融解像ニ就テモ亦何等特殊ナル點ヲ認メズ。即チ強度ノ透明部ノ周圍ニハ影像濃度ヲ強く減弱セル蜂巢部ヲ有シ、此部ハ次第ニ其濃度ヲ増加シツ、漸次的ニ周圍ニ移行シ、「レ」線所見ヲ以テシテハ硬腦膜外膿瘍乃至頭蓋窩骨壁ニ變化アルヲ全然推測シ能ハザリシモ、手術ノ結果ハ頭蓋窩骨壁ニハ明瞭ナル骨缺損或ハ「カリエス」ノ部分ヲ認メ、且ツ硬腦膜外膿瘍ヲ證明シ得タリ。

第五章 「レ」線像ト臨牀的所見

硬腦膜外膿瘍ノ合併ハ之ヨリモ更ニ危險ナル頭蓋内合併症ヲ誘發スル第一歩タル場合決シテ尠ナカラザルガ故ニ、之ヲ早期ニ診定シ、之ヲ可成の早く手術的ニ開放セザルベカラズ。然ルニ硬腦膜外膿瘍ハ臨牀上他覺的並ニ自覺的症候ヲ全然缺如スルコト稀ナラズ。且ツ是等ノ症候ヲ有スル場合ニ於テモ、其症候タルヤ硬腦膜外膿瘍ニ特有ナルモノニ非ズシテ、之ニ因リテ唯其合併セルヤヲ推察シ得ルニ止マルノミ。

自覺的症候トシテ患側ニ限局スル頭痛ト其他ノ腦症狀、他覺的症候トシテ乳嘴突起ノ後邊部ニ限局セル腫脹ニ就テ、余等ノ症例ヲ觀ルニ、患側ニ限局セル頭痛ヲ訴ヘシモノハ一〇例、眩暈、短時間ノ意識瀾濁或ハ嘔吐アリシモノ二例、乳嘴導血管部位ニ一致セル腫脹ヲ認メタルモノ二例アリ。之ヲ「レ」線像ノ變化ト比較スルニ次ノ如シ。

一、特殊ノ限局性透明像ヲ呈セル五例中

二例 偏頭痛

一例 偏頭痛ト乳嘴導血管部ニ一致セル限局性腫脹

五例 偏頭痛

二、頭蓋窩骨壁ノ影像ノ一部ニ變化ヲ認ムル十一例中二例 眩暈、短時間ノ意識瀾濁、嘔吐等ヲ訴フルモノ

一例 乳嘴導血管部ニ一致セル限局性腫脹

三、特殊ノ變化ヲ呈サルモノ八例中

三例 偏頭痛

之ニヨリテ觀ルニ、硬腦膜外膿瘍ノ合併ヲ疑ハスル自覺的症候ヲ有スルモノ、中ニハ、「レ」線像ガ何等特殊ノ變化ヲ示サルモノ尠ナカラズト雖モ、其大部分ハ第一類及ビ第二類ニ屬スル明瞭ナル變化ヲ呈シ、他覺的ニ乳嘴導血管部ニ一致セル限局性腫脹ヲ認メラル、モノニ於テハ、「レ」線像上ニモ亦極メテ明瞭ナル變化ヲ示スモノナリト言フヲ得ベシ。

然ルニ之等臨牀的症候ノ出現ト「レ」線寫眞上ニ出現スル影像ノ變化トノ平行性ニ就テハ、之等ノ症例ノ殆ンド總テガ既ニ明瞭ナル硬腦膜外膿瘍ヲ形成セル後ニ、初メテ余等ノ臨牀ヲ訪レタルモノニシテ、臨牀的經過ヲ永ラク觀察スルコト能ハズ、且ツ「レ」線所見ノ變化ヲ連續「レ」線撮影ニヨリテ觀察スルコトモ能ハザリシモノニシテ、從ツテ「レ」線像上ニ明瞭ナル變化ガ初メテ出現セル時期ト自覺的或ハ他覺的症候ノ初メテ出現セル時期トノ間ニ、如何ナル差異ヲ有スルモノナリヤ、又兩所見間ニ如何ナル平行性ヲ有スルモノナリヤ、此點ニ關シテハ遺憾ナガラ全ク不明ナリ。

次ニ乳嘴突起炎ノ臨牀的經過、起炎菌、乳嘴蜂窠型ト之等「レ」線像トノ間ニ、如何ナル關係ヲ有スルヤニ就テ見ルニ、次表ニ示スガ如ク第一類ニ屬スル「レ」線像ヲ有スルモノニ於テハ、臨牀的經過ノ亞急性、慢性ニ經過セルモノハ第二、第三類ノモノニ比シテ比較的ニ多キモ、明瞭ナル關係ヲ認ムル能ハズ。起炎菌トノ關係ニ就テモ亦明瞭ナル關係ヲ有セザルガ如シ。唯第一類ニ屬スル「レ」線像ヲ呈スルモノハ乳嘴蜂窠ノ第一型、第二型ノ如ク細胞配列比較的規則的ナルモノニ多キニ反シ、第二類、第三類ノ「レ」線像ヲ有スルモノハ乳嘴蜂窠ノ細胞配列不規則ナル第四型、第五型ニ比較的多キヲ以テ觀ルニ、此兩者間ニハ多少ノ關係ヲ有スルモノナランカ。

臨牀經過、起炎菌 乳嘴蜂窠型	臨 牀 經 過						起 炎 菌						乳 嘴 蜂 窠 型					
	急性	亞急性	慢性	連鎖狀球菌	粘液性連鎖狀球菌	不明	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
「レ」線像	三	一	一	二	三	一	二	三	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一
第一類 特殊ノ限局性透明像ヲ呈ス	九	一	一	五	六	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第二類 頭蓋窩骨壁ノ影像ニ變化ヲ認ム	七	一	一	四	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第三類 特殊ノ變化ヲ示サズ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第六章 「レ」線像ト手術所見

手術ニヨリテ證明スルコトヲ得タル乳嘴突起内融解竈ハ、之等二十四例ニ於テハ孰レモ「レ」線寫眞ノ示ス骨融解像ニ極メテヨク一致セルモ、手術ニヨリテ頭蓋窩骨壁ノ一部ニ骨缺損、骨瘻或ハ骨疽性變化ヲ認メ、更ニ其部分ニ大ナル硬腦膜外膿瘍ヲ證明シ得タル場合ニ於テモ、「レ」線像ニハ之ニ相當セル變化ヲ認ムル能ハザルモノ尠ナカラザルハ已ニ第四章ニ於テ記載セル所ナリ。

今硬腦膜外膿瘍ノ存在セル位置ト「レ」線像トヲ比較觀察スルニ、特殊ノ限局性透明像ヲ呈セルモノ(第一類)ニ於テハ、硬腦膜外膿瘍ハ孰レモ極メテ邊緣部ニ存シ、且ツ乳嘴突起ノ外側壁ニ極メテ近接セル部位ニ存ス。就中第二、第一四、第二一ノ三例ニ於テハ、乳嘴突起ノ外側骨壁ノ直下ニ位シ、極メテ淺在性ナリキ。且ツ之等五例ニ於ケル頭蓋窩骨壁ノ缺損部ノ位置ハ孰レモ手術ノ結果、斜位撮影法ニ際シテ大體「レ」線方向ニ直角ニ交叉スルガ如キ部位ニ存スルヲ認メタリ。

頭蓋窩骨壁ノ影像ニ變化ヲ認メタル(第二類)十一例中、一例ハ中頭蓋窩底ニ、三例ハS字狀溝周圍ニ、四例ハ後頭蓋窩前壁ニ硬腦膜外膿瘍ヲ有シ、残りノ三例ハ錐體後面ニ存セル深在性硬腦膜外膿瘍ナリ。孰レモ膿瘍ノ位置ハS字狀溝ノ前内方或ハ後外方ニ位ス。尙之等硬腦膜外膿瘍ハ孰レモ乳嘴突起ノ邊緣部ニアラズシテ、第一類ニ見ラレタルモノヨリモ遙カニ深在性ノモノ多シ。尙ホ此中第一九ノ一例ヲ除キ他ハ總テ橫竇骨壁或ハ頭蓋窩骨壁ノ一部ニ明瞭ナル骨缺損ヲ證明シ得タルモノナリ。

「レ」線像上ニ特殊ノ變化ヲ認メザル(第三類)八例ニ於テハ、硬腦膜外膿瘍ガ後頭蓋窩側壁ニ存在セルモノ二例、前壁ニ存在セルモノ五例、

他ノ一例ハ横竇周圍ニ認メラレタルモノナリ。之等八例中四例ハ骨壁「カリエス」トナリ、明瞭ナル骨缺損ヲ造ラザルモ、他ノ四例ハ明瞭ナル骨缺損ヲ有シ、孰レモ手術ニヨリテ明瞭ナル骨壁ノ變化ヲ認メラレタルニ拘ラズ、其ノ「レ」線像ニ於テハ之ニ相當セル變化ヲ認メ得ザリシモノナリ。

尙ホ又第一類、第二類ノ如ク、「レ」線像上明瞭ナル變化ヲ認メラレタルモノニ於テモ、「レ」線寫眞ニヨリテ推定セラレタル變化ト手術ニヨリテ證明セラレタル頭蓋窩骨壁ノ破壊部乃至硬腦膜外膿瘍ノ大サトノ間ニハ一致セザルモノ尠ナカラズ。第一類ノ五例ハ、孰レモ手術ニヨリテ證明セル硬腦膜外膿瘍ノ範圍ハ大體ニ於テ「レ」線像ニ一致セルモ、「レ」線寫眞ニ見ラル、透明像ハ膿瘍ノ實際ノ範圍ヨリモ稍々小ナルガ如シ。然ルニ、之等五例中第一三、第一四、第二一ノ三例ハ「レ」線像ノ透明部ガ頭蓋窩骨壁ノ缺損部ノ大サニ極メテヨク一致セルモ、他ノ第二、第一二ノ二例ニ於テハ、透明像ノ大サハ骨壁缺損部ノ大サヨリモ明カニ大ナルヲ認メタリ。第二類ニ屬スルモノニ於テハ、硬腦膜外膿瘍ノ存在セル位置ハ「レ」線寫眞上影像ノ破壊或ハ影像濃度ヲ強く減弱セル部分ニ全く一致セルモ、其實際ノ範圍ハ「レ」線像ノ示ス頭蓋窩骨壁ノ變化ヨリ孰レモ大ニシテ、頭蓋窩骨壁ノ變化ニ就テモ亦兩所見間ニ量的差異ヲ認メラル、モノ多シ。即チ第一、第三、第五、第一五、第二〇、第二四ノ六例ノ如ク、「レ」線像上相當廣範圍ニ亘レル明瞭ナル影像ノ破壊、缺損ヲ認メタルモノニ於テハ、影像ノ破壊ニヨリテ推定セラレタル骨壁破壊ノ範圍ト、手術ニヨリテ認メタル骨缺損部ノ大サトハ全く一致セルモ、第四、第一九例ハ頭蓋窩骨壁ノ缺損部ノ實大ハ「レ」線像ニヨリテ想像セラレタルモノヨリ遙カニ小サク、第一八例ハ「レ」線像ノ示ス範圍ヨリモ遙カニ大ナル骨缺損部ヲ認メタリ。又第一一、第一七ノ二例ハS字狀溝前壁ノ影像ハ其濃度ヲ強く減弱セルモ、明瞭ナル影像ノ破壊部ヲ示サズ、僅カニ其外側部ニ相當スル個所ガ透明度ヲ増強セルミニテ、明瞭ナル骨破壊部ナシト思考セラレタルニ、手術ノ結果ハ頭蓋窩側壁ニ明瞭ナル缺損部ヲ證明セリ。

之ニ依ツテ觀ルニ、耳性硬腦膜外膿瘍ノ合併ニヨツテ、「レ」線寫眞上ニ出現スル影像ノ變化ハ、明瞭ナル限局性ノ透明像ヲ呈スルト、天蓋或ハS字狀溝骨壁ノ影像ノ破壊ヲ呈スルトニ拘ハラズ、此種ノ影像ノ變化ハ其多少タルトヲ問ハズ、常ニ一、乳嚢細胞ノ融解。二、頭蓋窩骨壁ノ破壊。三、硬腦膜外ニ溜溜セル膿瘍ノ三要約ノ下ニ構成セラレタルモノタルハ疑ハ容レザル所ナルモ、第二類ニ於ケルガ如キ影像ヲ呈スルモノハ勿論、第一類ニ於ケルガ如キ明確ナル強度ノ透明像ヲ呈スルモノニ於テモ、之ニ最モ密接ナル關係ヲ有スルモノハ頭蓋窩骨壁ノ融解、破壊ナリ。然ルニ此「レ」線影像ノ破壊程度ハ必ズシモ頭蓋窩骨壁ノ缺損部ノ大サニ一致セザルモノ尠ナカラズ。コレ骨壁ノ缺損部ノ周圍部分ガ有スル造影度如何ト此部ガ「レ」線方向ニ對スル角度ノ變化トニ因ルコト大ナラン。

即チ耳性硬腦膜外膿瘍ハ乳嚢突起ノ邊緣部ニ位シ、然カモ極メテ淺在性ノモノニ於テハ、限局性ノ透明像ヲ呈シ、其他ノ部位ニ存スルモノ

ニ於テハ、頭蓋窩骨壁ガ造ル影像ノ一部ニ、或ハ錐體ノ輪廓ノ一部ニ明瞭ナル影像破壊ノ像ヲ呈スルモノ多キモ、硬腦膜外膿瘍自體ハ極メテ微弱ナル「コントラスト」ノ差異ヲ投影スルニ過ギザルベク、從ツテ之等影像ノ破壊ト「コントラスト」ノ變化トハ主トシテ、骨融解電ト頭蓋窩骨壁ノ變化ニ於ケル變化、就中後者ニ因ルモノナラント思惟ス。從ツテ明瞭ナル硬腦膜外膿瘍アル場合ニ於テモ、此部ノ外側ニ存スル頭蓋窩骨壁ノ變化ノ僅微ナルモノニ於テハ、「レ」線寫真上ニ明瞭ナル影像ノ變化ヲ呈スルニ至ラズ。又硬腦膜外膿瘍乃至頭蓋窩骨壁ノ變化ノ位置ガ淺在性ノモノハ深在性ノモノニ比シ、遙カニ明瞭ナル影像ヲ呈スト言フヲ得ベク、從ツテ、急性乳嘴突起炎ノ「レ」線寫真上ニ第一類ニ屬スルガ如キ影像ヲ認メタル場合ニハ、極メテ淺在性ノ硬腦膜外膿瘍ヲ合併セルモノナラント推測スルコトヲ得。

然リト雖モ、第三類ノ影像ヲ呈セルモノニ於テモ硬腦膜外膿瘍ヲ合併セルモノ尠ナカラズ。又已ニ記載セルガ如ク、第二類ニ屬スルガ如キ影像ヲ呈セルモノニ於テモ、屢々硬腦膜外膿瘍ヲ合併セザルモノアルガ故ニ、急性乳嘴突起炎ノ「レ」線像ニ第二類ノ如キ影像ノ變化ヲ認メタリト雖モ、必ズシモ常ニ硬腦膜外膿瘍ヲ合併セルモノト速斷スルコトヲ得ズ。又此種ノ「レ」線像ノ變化ヲ認メラレザルガ故ニ、硬腦膜外膿瘍ヲ合併セズトモ斷定スル能ハズ。

尙第一類或ハ第二類ニ屬スル影像、即チ「レ」線像ニ明瞭ナル破壊、缺損アル場合ニ、之ヲ病的ノ變化トシテ診定スルガ爲ニハ、此影像ノ缺損即チ骨缺損ノ變化ハ乳嘴突起炎ニヨル骨融解ノ作用ニヨリテ招來セラレタルモノナルコトヲ確實ニ證明シ得ラル、モノ、或ハ之ヲ充分ニ推定シ得ラル、モノタルヲ要ス。從ツテ、「レ」線像ノ破壊或ハ缺損部ト骨融解像トハ如何ナル位置ノ關係ヲ有スルヤヲ常ニ觀察スベキモノニシテ、此骨融解像ヲ除外シテ此種ノ「レ」線像ノ變化ヲ論ズル能ハズ。

之ヲ要スルニ、耳性硬腦膜外膿瘍ハ直接的ニ之ヲ證明スルコトハ殆ンド不可能ナルモ、或ル適當ナル條件ヲ具有セル場合、殊ニ頭蓋窩骨壁ニ一程度ノ變化ヲ有シ且ツ其位置ノ關係ガ「レ」線投影上好都合ナル場合ニ於テハ、極メテ明瞭ナル限局性透明像トシテ、之ヲ間接的ニ證明スルコトヲ得。又耳性硬腦膜外膿瘍ハ屢々頭蓋窩骨壁ノ變化ト「レ」線照射方向トノ關係ニヨリテ、天蓋部、橫溝或ハ錐體部ノ輪廓ニ明瞭ナル破壊、缺損ヲ示シ、之ニヨリテ間接的ニ其合併ヲ推定シ得ラル、コト尠ナカラズ。

第七章 結 論

一、耳性硬腦膜外膿瘍ヲ合併セル急性乳嘴突起炎ニ就テ、骨融解ノ「レ」線像ヲ見ルニ、周邊性融解像ヲ呈スルモノ最モ多ク、五〇・〇%ヲ占メ、乳嘴蜂巢全般ニ亘ル強度ノ融解像ヲ示スモノハ二・三・一%、多發性融解像ヲ呈スモノハ一・九・三%ニシテ、其他ノ融解像ヲ呈スモノハ遙カニ尠ナシ。

二、耳性硬腦膜外膿瘍ノ「レ」線像ヲ次ノ三種ニ分類スルコトヲ得。

第一類。乳嘴突起ノ邊緣部ニ強度ノ限局性透明像ヲ呈スモノ。(二一・〇%)

第二類。頭蓋窩骨壁ノナス影像(天蓋部、橫溝或ハ錐體部ノ骨壁ニヨリテ生ズル線影)ノ一部ニ影像破壞ヲ示スモノ。(四六・〇%)

第三類。特殊ノ影像ヲ示サバルモノ。(三三・〇%)

三、耳性硬腦膜外膿瘍ノ合併ヲ疑ハスル自覺的症候ヲ有スルモノ、中ニハ、「レ」線像上何等特殊ノ變化ヲ示サバル第三類ニ屬スモノ尠ナカラズト雖モ、大部分ハ第一類、第二類ニ屬スル明瞭ナル變化ヲ呈シ、他覺的症候トシテ乳嘴導血管部ニ一致セル限局性腫脹ヲ認メラレタルモノニ於テハ、「レ」線像上ニモ極メテ明瞭ナル變化ヲ認メタリ。

四、第一類ノ「レ」線像ヲ呈スルモノハ細胞配列比較的規則的ナルモノニ多ク、第二、第三類ノ「レ」線像ヲ呈スルモノハ細胞配列比較的

不規則ナルモノニ稍々多シ。

五、第一類ノ「レ」線像ヲ呈セルモノニ於テハ、硬腦膜外膿瘍ハ孰レモ乳嘴突起ノ邊緣部ニ存在シ、且ツ極メテ淺在性ナルニ反シ、第二、

第三類ノ「レ」線像ヲ呈セルモノニ於テハ、膿瘍ノ位置ハ前者ニ比シテ遙カニ深在性ノモノ多シ。

六、第一類、第二類ニ屬スル「レ」線像ノ變化ハ乳嘴蜂窠ノ融解、硬腦膜外ニ滲溜セル膿瘍及頭蓋窩骨壁ノ破壞等ノ局所的變化ニ夫々關係

スル所尠ナカラズト雖モ、之ニ最モ密接ナル關係ヲ有スルハ頭蓋窩骨壁ノ破壞、缺損ナリト思考ス。

七、「レ」線寫眞上ニ影像ノ缺損ヲ認メタリト雖モ、必ズシモ常ニ硬腦膜外膿瘍ヲ合併セルニ非ズ。又「レ」線像ガ特殊ノ變化ヲ示サバルガ

故ニ、硬腦膜外膿瘍ヲ合併セズトモ速斷スル能ハズ。

八、耳性硬腦膜外膿瘍ヲ「レ」線寫眞上ニ直接描出スルコトハ殆ンド不可能ナルモ、或ル適當ナル條件ヲ具有セル場合、殊ニ頭蓋窩骨壁ニ一程度ノ變化ヲ有シ且ツ其位置的關係ガ「レ」線投影上好都合ナル場合ニ於テハ、極メテ明瞭ナル限局性透明像トシテ之ヲ間接的ニ證明スルコトヲ得。

九、急性乳嘴突起炎ノ「レ」線像ニ第一類又ハ第二類ニ屬スル變化ヲ明瞭ニ證明シ得タル場合ニハ、可成リノ確實サヲ以テ、耳性硬腦膜外膿瘍ノ合併ヲ推測スルコトヲ得。殊ニ第一類ノ「レ」線像ニ於テハ、膿瘍ハ極メテ淺在性ナリト判定シテ可ナリ。(J)

(本論文ノ大要ハ大日本耳鼻咽喉科會第三十六回總會ニ於テ演述セリ)

參考文獻

- 1) Roentgen, J.: Erkennung peristimulärer Abszess im Röntgenbild. Z. f. Hals-, usw. Heilk. 26, Bd. 1930. 2) Heilmann: Die Röntgenaufnahme des Wurzelfortsatzes und ihre klinische Bedeutung. Passow-Schiffers Beitr. 1922. 3) Law: Mastoid. New York, P. B. Hoeber 1921. 4) Meyer, E. G.: Oologische Röntgendiagnostik Handbuch der Röntgenkunde II. Bd. 5) 増田義次: 耳性頭蓋内合併症「レントゲン」線寫眞供覽. 耳鼻. 第三卷, 557頁, 1930. (原稿到着=昭和七・一・一五)

附圖說明

- 第一圖 松野某、二十六歲、男。左側。乳嘴突起ノ後上部ニ特殊ノ限局性透明像アリ。(矢ハ限局性透明像ヲ示ス)
第二圖 加藤某、三十三歲、男。左側。S字狀溝ノ影像濃度ヲ著明ニ減弱ス。(矢ハ影像濃度ノ著明ニ減弱セル部分ヲ示ス)
第三圖 深澤某、四十七歲、男。右側。S字狀溝前緣ノ輪廓ハ上下兩腔中間部ニ於テ廣範圍ニ破壞ス。(矢ハ缺損部ヲ示ス)
第四圖 大谷某、十七歲、男。左側。蜂窠全體ニ互リ強度ノ融解像ヲ呈ス。其他ニ特殊ノ影像ヲ呈セズ。
第五圖 鳥井某、四十歲、男。右側。乳嘴突起ノ後上部ニ明瞭ナル周邊性融解像ヲ示ス。特殊ノ影像ヲ示サズ。
第六圖 青木某、五十一歲、男。右側。乳嘴突起ノ後上部ニ融解像ヲ疑ハスル部分(矢ノ示ス部分)アルモ明瞭ナラズ。其他ニ特殊ノ影像ヲ示サズ。
第七圖 白田某、十七歲、男。左側。乳嘴細胞ノ間壁ハ所々破壞、消失シ、多發性融解像ヲ呈スモ、特殊ノ影像ヲ認メズ。
第八圖 吉武某、二十四歲、男。右側。S字狀溝前緣ノ輪廓ハ極メテ纖細ナル影像濃度弱キ線影トナレルモ(矢ノ示ス部分)未ダ明瞭ナル影像ノ缺損部ヲ示スニ至ラズ。
第九圖 矢島某、九歲、男。左側。乳嘴突起ノ後邊部ニ特殊ノ限局性透明像ヲ呈ス。(矢ハ限局性透明像ヲ示ス)
第十圖 中村某、三十五歲、女。右側。乳嘴突起ノ輪廓部ニ特殊ノ強度ノ限局性透明像ヲ示ス。(矢ハ影像缺損ノ部分ヲ示ス)
第十一圖 三木某、三十五歲、女。左側。乳嘴突起ノ後上部ニ特殊ノ限局性透明像ヲ呈ス。(矢ハ透明像ヲ示ス)
第十二圖 早坂某、六十五歲、男。右側。S字狀溝ノ輪廓ハ上下兩腔中間部ニ於テ、極メテ廣範圍ニ互リ缺損ス。(矢ハ影像ノ缺損部ヲ示ス)
第十三圖 田中某、七歲、女。右側。乳嘴蜂窠ニ一様ニ強度ノ融解像ヲ示スモ、特殊ノ影像ヲ示サズ。
第十四圖 一宮某、二十八歲、男。右側。S字狀溝前緣ノ輪廓ハ一部極メテ纖細トナリ、影像濃度ヲ減弱ス。S字狀溝ノ影像ノ一部ハ其外側部ニ於ケル骨融解ノタメニ、一部分極メテ透明度強シ。(矢ハS字狀溝前緣ノ輪廓ノ一部ノ影像濃度ヲ減弱セル部分)
第十五圖 鈴木某、十三歲、女。左側。S字狀溝前緣ノ輪廓ハ一部分ニ於テ影像不明ナリ。(矢ハ影像不明ナル部分ヲ示ス)
第十六圖 加藤某、十六歲、女。右側。S字狀溝前緣ノ輪廓ハ一部ハ矢ノ示ス部位ニ於テ影像濃度ヲ減弱シ、不明瞭ナリ。
第十七圖 村松某、十五歲、女。左側。S字狀溝前緣ハ上下兩腔中間部ニ於テ、極メテ廣範圍ニ互リ不明瞭ナリ。(矢ハ影像ノ缺損部ヲ示ス)
第十八圖 小龍某、三十九歲、男。右側。乳嘴突起ノ後上部ニ限局セル特殊ノ強キ透明像ヲ呈ス。(矢ハ限局性透明像ヲ示ス)
第十九圖 佐々木某、四歲、女。右側。乳嘴突起ニ一様ニ強度ノ融解像ヲ呈シ、特殊ノ影像ヲ示サズ。
第二十圖 福井某、四十七歲、男。左側。特殊ノ影像ヲ示サズ。(矢ハ周邊部ニ於ケル融解像ヲ示ス)
第二十一圖 木村某、四十九歲、女。右側。a乳嘴蜂窠ノ一部分ニ影像濃度ヲ強度ニ減弱シ、一様ニ融解セントスルノ像ヲ呈ス。b錐體部ノ輪廓ハ孤形隆起部ニ於テ明瞭ナル缺損ノ一部分ヲ示ス。(矢ハ影像缺損ノ一部分ヲ示ス)
第二十二圖 村井某、三十五歲、女。右側。硬腦膜外膿瘍ヲ合併セザリシ急性乳嘴突起炎ノ融解像ノ一例ヲ示ス。
第二十三圖 野原某、五十六歲、男。右側。蜂窠發育不良ナルモノニ見ラル、急性乳嘴突起炎ノ骨融解像ノ一例ヲ示ス。

増田・義江論文附圖

聴器ノ「レントゲン」學的研究(其二)

耳性硬腦膜外膿瘍ノ「レ」線像ニ就テ

Fig. 1.

Fig. 2.

Fig. 3.

Fig. 4.

Fig. 5.

Fig. 6.

Fig. 7.

Fig. 8.

Fig. 9.

Fig. 10.

Fig. 11.

Fig. 12.

Fig. 13.

Fig. 14.

Fig. 15.

Fig. 16.

Fig. 17.

Fig. 18.

増田・義江論文附圖

聽器ノ「レントゲン」學的研究(其二)

耳性硬腦膜外膿瘍ノ「レ」線像ニ就テ

Fig. 19.

Fig. 20.

Fig. 21. a.

Fig. 21. b.

Fig. 22.

Fig. 23.